



中間報告会

開催記録



日時： 2015年（平成27年）9月19日（土）
14：00～16：30

会場： 狛江市立中央公民館・講座室

情報保障： 手話通訳・手書き要約筆記

参加人数： 96名



「市民センターを考える市民の会」中間報告会

開催記録目次

開会ごあいさつ	代表 平井里美	1
---------	-------------------	---

第1部／市民センターを考える市民の会中間活動報告

世話人 坂本みさと	4
---------------------	---

第2部／アンケート調査報告

図書館利用者アンケート 図書館分科会

まとめ役・世話人 林 健彦	12
-------------------------	----

公民館利用者アンケート 公民館分科会

まとめ役・世話人 周東三和子	18
--------------------------	----

第3部／若手メンバーによるプレゼンテーション

SMALL is COOL ～次の時代の市民センターをつくろう～

篠塚雄一郎 市民センターを考える市民の会 世話人

黒瀬武史 東京大学 都市デザイン研究室／工学部 都市工学科 助教

益邑明伸 東京大学大学院 学生

▲ 問題意識	23
▲ 粕江の分析	25
▲ 国内外の事例	32
▲ コンセプト	38
▲ 実現のための方策	39
▲ (参考) 改修案の例	46
▲ 参考書籍	48

● 開会ごあいさつ



市民センターを考える市民の会
代表 平井里美

昨年（2014年）の夏、ここ市民センターの耐震診断が行われました。そろそろ築40年になる建物ですが、耐震性に大きな問題がないとわかったことから、今の広さのままでリフォームだけを実施するという計画が進みました。

図書館は、長年にわたる市民の運動で、新築の一步手前までできていたことが、突然白紙になってしまった・・・という背景がありましたし、公民館には、利用登録団体が800以上もあるため、活動する場所が取れなくて、新しいグループが生まれにくいという状況がずっと続いていました。

公民館では、公民館ができた当初から、「地域や社会の問題に関する様々な講座」が行われていて、そこで学んだ市民がつながり合い、自主的にグループを作って、更に学習を重ね、その力がNPOやボランティアとして粕江の地域を支えて来た・・・という歴史があります。図書館は、そういった市民の活動を資料提供という側面でしっかりと支えてきました。

そんな「公民館と図書館をもっと充実してほしい」という、多くの市民の思いが、リフォームだけの計画をストップさせ、「市民センターを考える市民の会」という市と共同のプロジェクトがスタートしたのです。

戦後、日本が二度と戦争への道を歩むことのないよう、これからは、住民自らが主体となって「平和で民主的な社会」をつくっていくことが必要だと、それで公民館と図書館が設置されました。そして、それが社会教育法という法律に定められました。

行政は、住民同士がつながり、学習し、住民主体で地域や社会の課題解決が行われるよう、場所、事業、資料、職員配置などの環境整備を行うことが責務となっていて、そんな中で、公民館も図書館もこれまで続けてきました。

しかし、せっかくいい講座が開かれても、中央公民館に場所がないということで、新しいグループができて、活動を続けることができない状況が続いているのが現状です。そのことが、これ

まで狛江の福祉や環境、教育を支えてきた NPO やボランティアの高齢化にもつながり、衰退にもつながっていると言えます。

公民館が公民館の役割をしっかり果たすため、図書館が図書館の役割をしっかり果たすため、またそれが、誰もが暮らしやすいまちを作っていく力になるのであれば、市民の活動の場所、学習の場所をもっともっと広げていくことが必要ではないかと思います。



公民館

公民館での学習が、人と人をつなぎ、地域を支えてきた。

図書館

資料提供、相談業務で市民の学習や活動を支えてきた。



これからの時代、大人が学び地域や社会をしっかり支えていくことが、本当に大切になります。立場の弱い人や声をあげられない人を、排除したり、犠牲にしたりすることのない社会でありたいと思います。異なる意見を無視したり、数の力で無理やり押し進めたりすることのない人間関係を築きたいと思います。私たちは、市民の会の活動をしながら、また、日々の暮らしの中で、自分のことも相手のことも大切にしながらしっかりと話し合っているだろうか。自分自身の足元はどうだろうと、お互い確かめ合いながら、活動しています。そして今日が、本当の民主主義のスタートになるとの思いを新たにしています。

市民センターを考える市民の会は、行政にお任せして作ってもらうのではなく、この狛江のまちに、そしてこれからの時代に、どんな図書館と公民館が必要なのかを、市民が主体となって、行政と一緒に考えていく・・・そういった本当の市民協働の在り方を実現しながら、ここをどのような市民センターにするのか、市に提案するために活動しています。

市民の会がめざすもの

- ・行政任せではなく、多くの市民が知恵を出し合う
- ・**本当の**市民参加、市民協働

- ① 生涯学習・社会教育施設のあり方の検討
- ② 公民館・図書館の機能とサービス提供のあり方の検証
- ③ 市の計画、財政状況の検証



来年3月をめどに、市民の案をまとめますが、市は市民の会の案を尊重して市民センターの改修にあたると、協定※ の中でしっかりと約束しています。

そして、単なるハコモノを作るのではなく、

- ① 生涯学習・社会教育施設のあり方の検討
- ② 公民館・図書館の機能、並びにサービス提供のあり方の検証
- ③ 市の計画、財政状況の検証を行った上で、具体的な形を考えます。

※ 「市民センター改修計画案作成に関する協定書」平成27年（2015年）2月15日締結。
全文は市民の会ホームページでご覧いただけます。 <http://www.komae-tokyo.org/shimin/accord>

会の趣旨に共感してくださった、社会学者の上野千鶴子さんが、2月1日に行われた「市民の会の立ち上げの会」で「大人が学ぶということ～当事者主権と市民自治～」をテーマに講演してくださいました。お任せ民主主義はやめて、自分の問題として、地域や社会、政治を考え、声を上げて、変えていこう・・・という内容に、私たちはとても励まされました。上野千鶴子さんから、今日の中間報告にあたって、励ましの言葉が届いています。



「市民が主体となつての活動は大変でしょうが、民主主義はノイズの発生装置です。ノイズを楽しまなきゃ！」 「狛江のサイズだとおもしろいことがいろいろできそう、見守ってますよ。」

形だけ上手くやるのではなく、様々な立場の意見を出し合い、ぶつけ合いながら進ん

でこそ、意味があるということだと、ありがたく受け止めています。

会が発足してから、私たちは市の職員と一緒に、市の計画や財政を勉強し、狛江の置かれている状況を共有しました。そして、財政や公共施設の在り方も学びました。それは、私たちは市民センターというハコモノをつくるためではなく、市民センターが「市民の居場所として、どうあったらいいか」「図書館は、公民館は、これからのまちづくりにどのような役割を果たしていけるのか」その中身をしっかりと捉え、市に提案することが、市との約束ですので、前半は市民センターを考える上で、欠かすことのできない基本を学び合い、共有してきました。

そして、4つの分科会をつくり、学習会を開いたり、意見交換会、ワークショップ、他市の施設の見学会などを行いました。7月には図書館利用者へのアンケート、8月には公民館利用者へのアンケートを行い、利用者が困っていることや、公民館、図書館への希望を集めました。

分科会の活動

- ① 公民館分科会
- ② 図書館分科会
- ③ 財政分科会
- ④ 公共施設分科会



今ご覧いただいているスライドは、市民の会のホームページから抜粋したのですが、市民の会の活動はホームページでご覧いただけます。このホームページのおかげで、狛江の市民センターのことを全国的に知ってもらうことができ、繋がりが広がっています。

では、これから分科会の活動を報告します。ここからはプレゼンターを坂本みさとさんをお願いしたいと思います。

● 第1部／市民センターを考える市民の会中間活動報告



市民センターを考える市民の会 事務局
世話人 坂本みさと

▲ 公民館分科会

公民館分科会は、市民センターのうち公民館部分について、自由な雰囲気でお話し合い、学び、考えあってきました。

これまで

第1回はみんなの居場所としての公民館について、それぞれの思いを自由に出し合いました。第2回では狛江の公民館の活動を知るために、現状、歴史、経験をお聞きしました。第3回は社会教育の研究者から、法律の裏付けや、公民館のあり方について学びました。第4回はこんな公民館あったらというテーマでお話ししました。また、私たちが公民館を考える上で参考となりそうな公民館を見学し、職員からいろいろお話を伺うことができました。

- ・第1回：4月／フリートーク
私たちが考える“みんなの居場所” 公民館
- ・第2回：5月／狛江の公民館活動を知ろう
現状、歴史、経験者の話
- ・第3回：6月／研究者から学ぶ
「公民館について知りたいのですが」
- ・見学会：7月／国立市公民館
- ・第4回：8月／フリートーク
あったらいいこんな公民館



市民の学習意欲から生まれた狛江の公民館

公民館の職員から公民館の現状を聞きました。年間延べ約10万人が利用し、利用団体は800ほどあります。ホールの年間利用率は92.5%、視聴覚室は90%、各会議室とも80%と非常に高く、良く利用されているのが特徴です。

また、狛江の公民館の成り立ちを聞きました。

狛江の公民館は市民の高い学習意欲から整備されてきました。二人の先輩からは公民館活動の体験とそこから得たことを聞きました。公民館での学びから生き方が変わり、地域・社会を変えていく実践へとつながっていった経験です。市民の学習を支援しようという職員の役割も大きくありました。

市民の学習意欲から生まれた狛江の公民館

- ・学びから始まった。
- ・熱意を持った職員の存在
講座から自主学習グループへ
- ・学びから実践へ
自分でものを考える→生き方が変わった。
- ・次の人たちにつなげる
だれでも学習できる環境→保育室運動



国立市公民館を見学して

狛江と町の面積や人口が近い くにたち公民館に見学 に行きました。多摩地域で先駆的な取り組みをしてきた公民館です。主催事業で、「人権」「平和」を柱に市民が共同で学ぶことや、学習機会を得にくい方々の学びを権利として保障することを、講座づくりの視点として重視しています。職員と利用者の話し合いや市民自治に向けた運営を大切にしているそうです。市民全体を対象にしていることが事業やたよりの内容などによく現れています。目から鱗の見学会でした。

公民館って何ができるの

公民館は自主グループの活動の場でもあります、本来どんなことができる場所なのでしょう。

- ・自分たちに必要な学習を自分たちで作ります。
- ・社会を学んで、暮らしと地域につなげることができます。
- ・異なる意見を真剣に聞き合って、一緒に行動できる場所です。
- ・学びの場や資料・情報を提供してくれます。
- ・人と人がつながることができます。
- ・たまり場、しゃべり場、楽しい時間をもてます。例えば、学習、生きがい、健康づくり、などなど。

つまり、公民館は、営利、特定の宗教の宣伝・勧誘、特定の政党応援の目的でなければ何でもできる自由な学びと活動が、市民に保障されている場です。

いま何が足りない？

では、今狛江の公民館は何が足りないでしょう。例えばこんなことがあげられます。

- ・なかなか部屋が取れない。
- ・若い人や働いている世代の参加が少ない。
- ・グループ間のつながりが、もっとあったらいいのに。
- ・子どもからおとなまで一緒にできることが少ない。
- ・みんなの声が届く仕組みがうまくできていない。
- ・来たくなる、居たくなる場になっていない。
- ・活動について気軽にいろいろ相談できる職員との関わりが十分でない。

では、私たちのめざす「人と地域をつなぐ公民館」は、どのようなものにしたら良いでしょう。

こんな公民館にしよう

みんなでワイワイガヤガヤ意見を出し合う中で、こんな公民館にしたいという方向性が見えてきました。

- ・どんな部屋が、どれだけあったらいいのか、部屋の予約の仕方など使いやすい方法を、みんなで考えよう。
- ・若者も、働く世代も、子育て世代も、子どもも、おとなもみんなが集う場にしたい。
- ・グループ同士の輪を広げよう、一緒に考えよう。

- ・市民と職員が一緒につくる公民館にしたい。
- ・時代と地域の課題をとらえた講座・企画をしよう。
- ・居こちのよい広場機能がある公民館をつくろう。

具体的にフリースペースの充実や市民ベースで運営する喫茶コーナーなども意見として上がっています。夏に行った利用者アンケートと市の市民意識調査の結果も参考にして、これから具体的なアイデアを考えていきます。みなさんも、ぜひ一緒に考えてください。

▲ 図書館分科会

こんなことをやってきました

「狛江市立新図書館基本計画書」（新図書館構想）とは、構想委員会が学識経験者だけでなく、市民も参加する中で1年かけて、構想をまとめ、翌年行政も参加して基本計画を策定（1999年）、つまり2年かけて市民と行政が共に参加して作り上げた計画です。2003年に市のまちづくり計画に正式に盛り込まれましたが、2012年に棚上げとなってしまいました。

- ・ 4月／フリートーキング
誰にとっても使いやすい図書館って？
- ・ 5月／狛江中央図書館長・司書に聞く
狛江の図書館は、いま
- ・ 6月／大澤正雄さん（東京の図書館をもっとよくする会）に聞く
公共図書館の役割とは？
- ・ 7月／図書館の基本を探る
立ち消えとなった「狛江市立新図書館基本計画書」
これからの図書館像等について
- ・ 8月／熊田富士江さん（元滋賀県電王町立図書館長）に聞く
新しい図書館の設立と運営の実際について



武蔵野プレイス見学会

武蔵野市にあり、今最も注目を集めている図書館。明るくゆったりとした読書スペース、カフェもあって居心地抜群。音楽やスポーツも楽しめる青少年スペースや、子育て世代のコーナーもあり、さまざまな人々が交流できる新しいタイプの図書館に感激！

調布市立図書館見学会

すぐれた図書館サービスを展開していることで知られている。カウンターには専門職がいて、気軽になんでも相談できる。徹底して子どもに合わせた子ども室、いたるところに読書スペースがあり、お気に入りの場所でゆっくり読書や調べものができる。見て回るのが楽しくなる書棚がいっぱい。つつい長居してしまう。

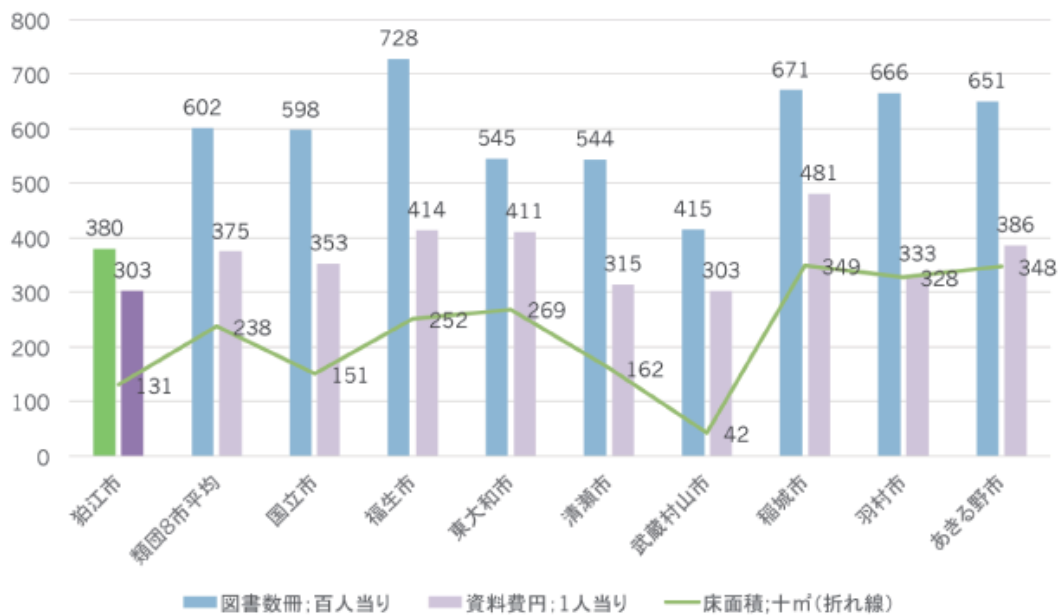
多摩地域の同規模8市との比較

☆ 各中央図書館の床面積では同規模9市中8位。とにかく狭いです。

☆ 市民100人あたりの全体の蔵書（図書）数は、最下位。市民1人当たりの資料費も最下位（同率8位）

「図書が少ない、新刊本が少ない」ことが裏付けられました。

多摩地域の同規模8市との床面積・蔵書(図書)数・資料費比較



図書館の役割

図書館は民主主義の学校と言われ、市民ひとりひとりが自立して生きていくのをサポートする場所です。

図書館の役割

- **図書館は<文化の社会保障>**市民の知る自由を保障する
資料・情報を提供して、自分で判断する力を育てる。
- いつでも、どこに住んでいても、だれでも気軽に利用できる**市民の書斎**。
- 高齢者や障がいのある人々も、だれでも等しくサービスを受けられる。
- **地域の情報拠点**として、地域や住民の課題解決をサポートする。



みんなの図書館をつくろう！

- 蔵書を増やそう、スペースを増やそう。
- ふれあいの図書館。人が出会える、自ら学習できる場
- 基本サービスの充実
幅広い魅力的な蔵書、相談できる窓口、地域資料の充実
- 子どもから高齢者まで、世代に応じたサービス
- 専門的な職員の配置：どんな相談にものってくれるきめ細かいサービスのできる人が必要



みんなの図書館をつくろう！

7月におこなった図書館利用者アンケートと、4月に狛江市が実施した意識調査に寄せられた意見を踏まえ、「新図書館構想基本計画書」（規模：4,769 ㎡）等の資料も参考にしながら、「誰にとっても使いやすい図書館」を探っていきます。 一緒に作っていきませんか？

▲ 財政分科会

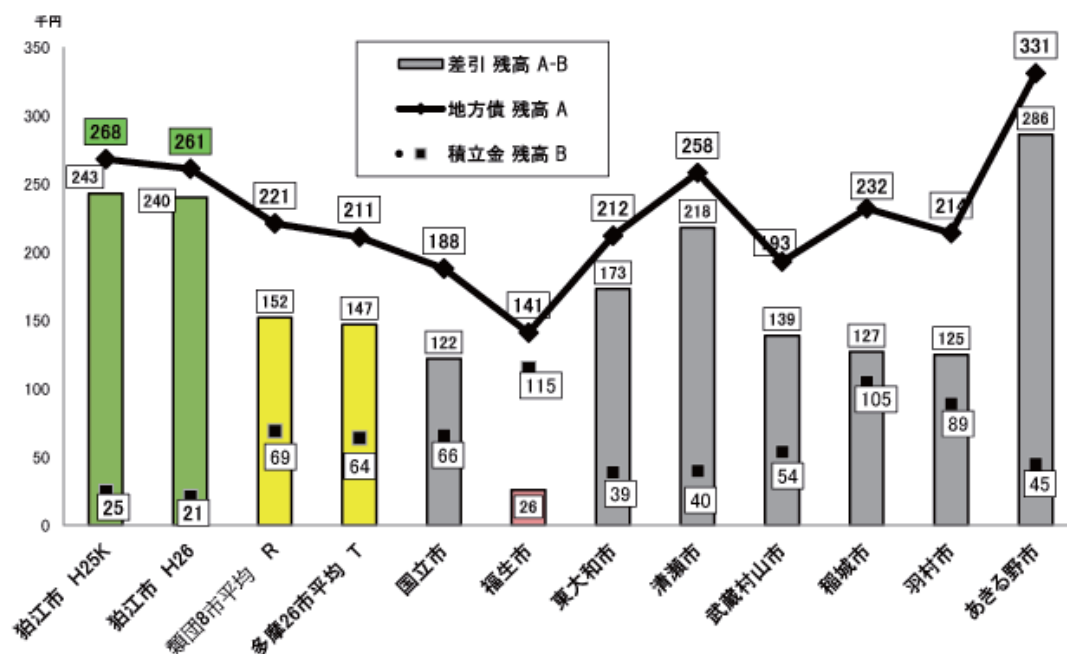
これまでの財政分科会の活動をまとめてみました。市役所の財政課や計画室の職員から、最近の財政情報の説明やいろいろな資料の提供をしていただきました。それで、結局どうなのとなると、会社の決算と違って、なかなかわからないというのが、本当のところなんです。

そこで、地方自治体の財政状況を示す指標の中から、ここでは、借金(地方債残高)と貯金(積立金残高)の状況について、人口 10 万人以下の多摩地域の類似団体(類団)、狛江市を含めて 9 市の状況を平成 25 年度実績に基づいて比較しました。

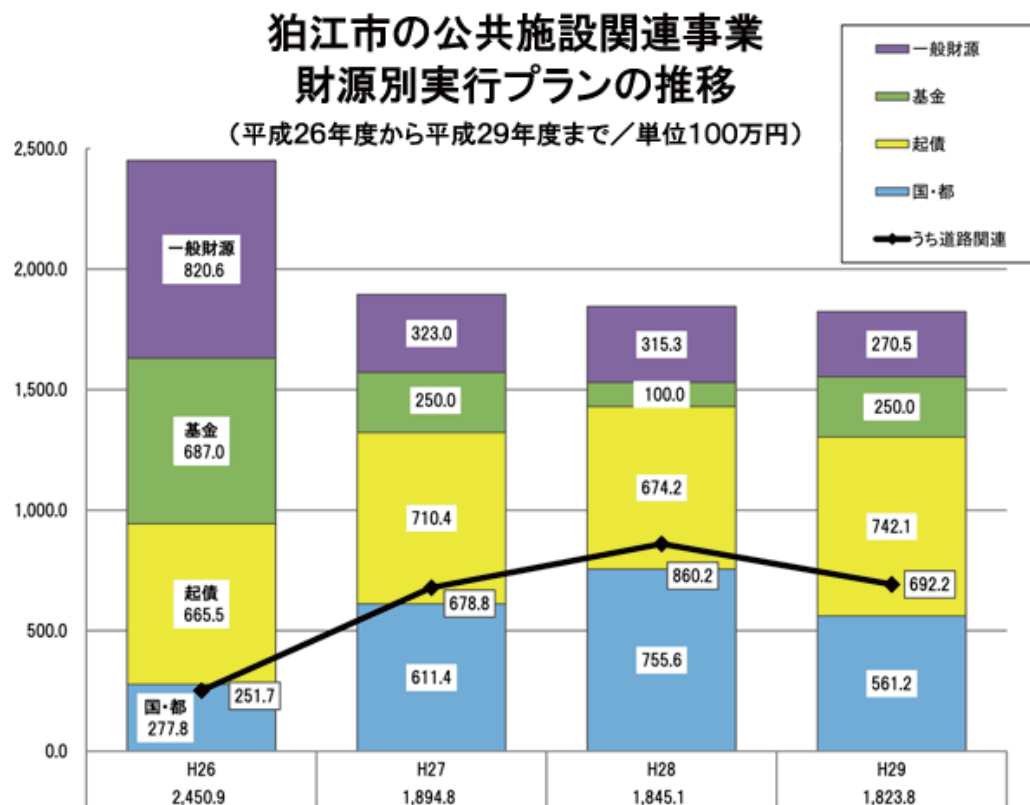
まず下のグラフですが、平成 25 年度の市民 1 人当たりの借金と貯金を折れ線グラフで示しています。棒グラフは借金と貯金の差額で、長いほうが貯金を差し引いた金残額が多いということになります。左の緑色の狛江市は、残念ながら、あきる野市とともに借金が多く貯金は少ない、財政的な「ゆとりがない」状況にあるというのが現状です。

なお、狛江市のみ平成 26 年度の決算の数値も載せていますが、借金が少なくなっています。後で述べますが、この傾向は続きそうで、希望が持てるのではないかと期待したいところです。

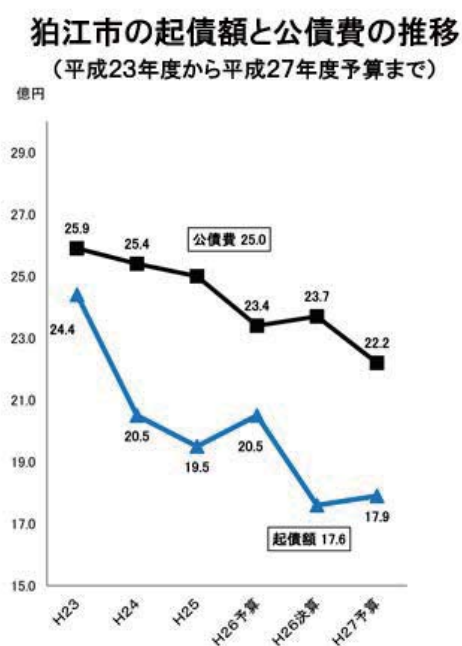
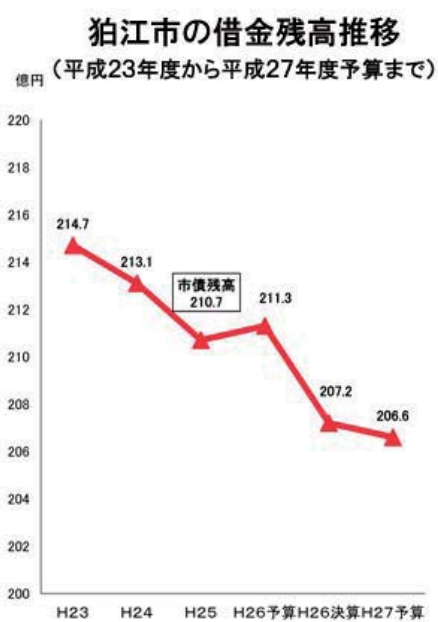
平成25年度 狛江市（平成26年度も付記）と類似団体8市との 1人あたり地方債・積立金・差引地方債残高の比較



次のグラフで、狛江市が進めている実行プランから、公共施設関連の事業を見てみます。おわかりのように、この関連事業は減少傾向にあります。4年間で、総額は 6.3 億円も減少しました。今後も大きな事業は、予定されていません。市債の発行も、大きな変動はありません。その中でも、道路関連の事業が、4年間で約 25 億円(31%)と大きな割合を占めていますが、抑制したり先延ばしを検討していいかもしれません。



次のグラフは、平成23年度から平成27年度予算までの借金残高と借金の返済額（公債費）と新たな借金の推移をグラフにしたものです。平成26年度の決算までの3年間で、借金残高（7.5億円減）も借金の返済額（公債費2.2億円減）も新たな借金（6.5億円減）も、それぞれ、着実に減少しています。



さらに、財政状況を示す実質の経常収支比率は、平成 26 年度決算では、平成 13 年以来実に 13 年ぶりに、100%を割って 98.2%になり黒字化しました。画期的なことです。財政改革が進んでいる証拠です。公債費(借金の返済)も着実に減ってきています。借金残高が 200 億円を切り、公債費が 20 億円を下回ることも、数年以内には見通せるところにきています。今後も財政改革が、着実に進むことを期待したいところです。

新たな財源の創出も、考えていきたいと思っています。

例えば、資源ごみの集団回収を市に任せるのではなく、市民の協力を得て、民間業者に段階的に任せていけば、1 億円を越える経費節減も充分見込めそうなので、さらに、実現のために、課題を整理していきたいと考えています。市民センターの改修・改築のための基金を設けて、市民の皆さんからの協力を求めることも、検討していきたいところです。

以上、狛江市の財政は、まだ厳しい状況ではありますが、3 年後には、かなりの改善が見込めるのではないのでしょうか。市民センターのリニューアルについても、明るい展望が開けることを期待しながら、作業をすすめていきたいと思っています。

▲ 公共施設分科会

公共施設分科会とは、この街にとって必要な「市民センター」を考えるため、視野を広げて公共施設について学んできました。

公共施設というと、建物だけをイメージしがちですが、道路などのインフラも含まれます。

これまでやってきたこと

- ・そもそもから考える私たちが望む「市民のセンター」
ディスカッション
- ・知っているようで知らない「地域センター・地区センター」
岩戸地域センター、上和泉地域センターの現状を聞く。
- ・「息づくまちづくり」 私たちに必要な市民センターとは
フリートーク
- ・「公共施設整備計画」
市の担当者から話を聞く。

見えてきたこと

フリートークや意見交換の中で浮き彫りになってきたことは、狛江には「誰もが自由に利用できる居心地の良い場所がない」ということでした。その他いくつかのことも見えてきました。

駅から近い市民センターが明るく綺麗な、市民の憩いの場になるなら、もっと多くの人々が集ま

り、交流も深まるでしょう。そして、他の公共施設も含めた講座やサークルなどの「情報が気軽に共有できるシステム」があり、「人と人の交流を促すコーディネーター」がいるなら、そこから新しいアイデアやつながりが生まれる可能性が出てきます。

市民センターを考える市民の会は、これからいよいよ、狛江に必要な公共施設（市民センター）を実現するため、具体的なプランを作成していきます。市民の生活や意識も大きく変化していますので、それに対応できるプランが必要だと考えています。

一緒に次の世代にも誇れる市民センターをつくりましょう。どうかお知恵をお貸してください。

● 第2部／アンケート調査報告

▲ 図書館利用者アンケート



市民センターを考える市民の会 図書館分科会
まとめ役・世話人 林 健彦

それではこれから私たちが7月に行った「利用者アンケート」の結果を報告します。今回は集計結果の概要ということで、全体で11問のうち、ピックアップしてお伝えします。

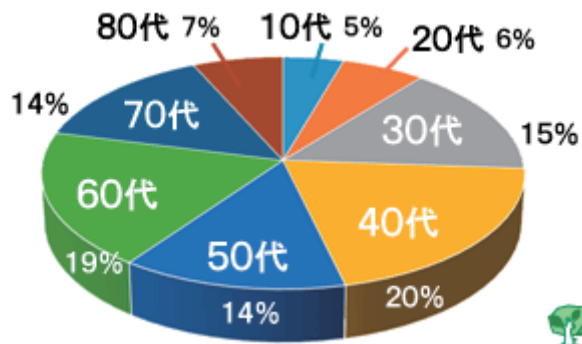
アンケートの概略は次のとおりです。

- ・目的： 市民センター（中央図書館＋中央公民館）の改修計画に反映させるため
- ・対象： 高校生以上（ほぼ満15歳以上）の図書館利用者（狛江市民、在勤・在学） 約1,000名
- ・方法： 対面によるアンケート票の配布及び回収
- ・時期： 2015年7月8日(水)～12日(日)（特別整理後の5日間、土日を含む）
- ・主体： 市民センターを考える市民の会、協力： 狛江市
- ・結果： 回収数（回答数） 914通 / 配布数 1,169通 = 回収率 78.2%

市の市民調査では十分でない、図書館を実際に利用している方々のニーズをつかもうというのが最大の目的で、高校生以上の利用者を対象に、入口で調査票を配り、原則その場でご記入いただきました。調査期間は土日を含め5日間で、900人以上の方から回答をいただき、配布数に対する回収率は80%近くでした。このことは、直接手渡しする調査方法によることが大きいのですが、その場のやり取りから利用者の関心の高さが感じられました。

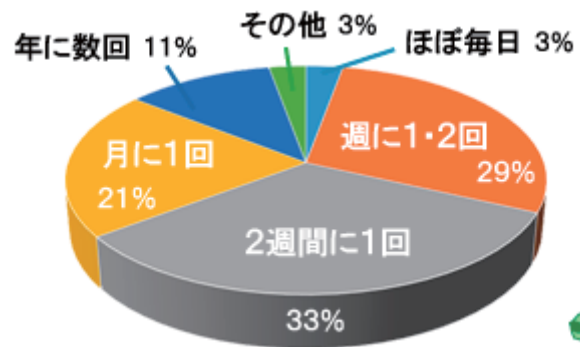
まず回答者のプロフィールですが、グラフはありませんが、男女比は男性4対女性6でした。

次に回答者の年齢構成をみると、10代、20代、80代以上と一部低い部分もありますが、30代から70代まで幅広い年代から回答をいただきました。これは個人貸出の年齢別構成とほぼ同じで、図書館は多くの世代が利用しており、今回も各層から声を寄せていただいたことになります。また30代から50代の現役世代が、半数を占めていることにはビックリし



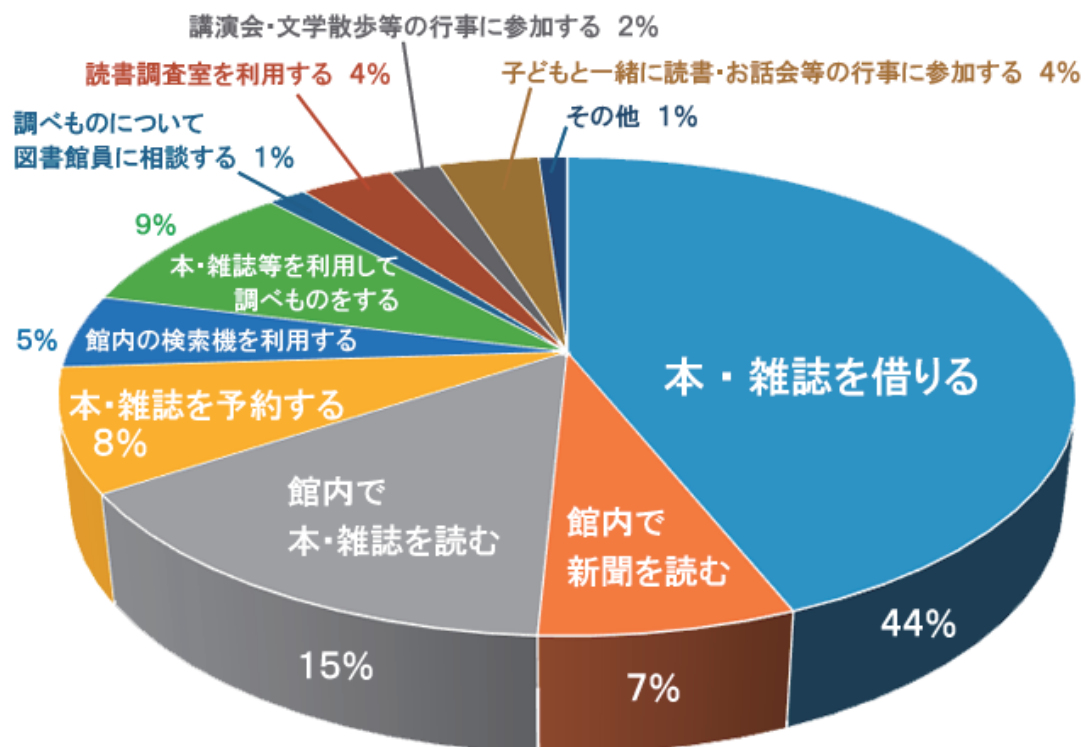
ました。

次に利用状況、利用実態を見ると、利用回数では「2週間に1回」、「週に1, 2回」がともに約30%ずつと多く、さらに「毎日利用」「月1回の利用」を含めると月1回以上の利用者が86%となり、定期的に利用する方が多いことが分かります。

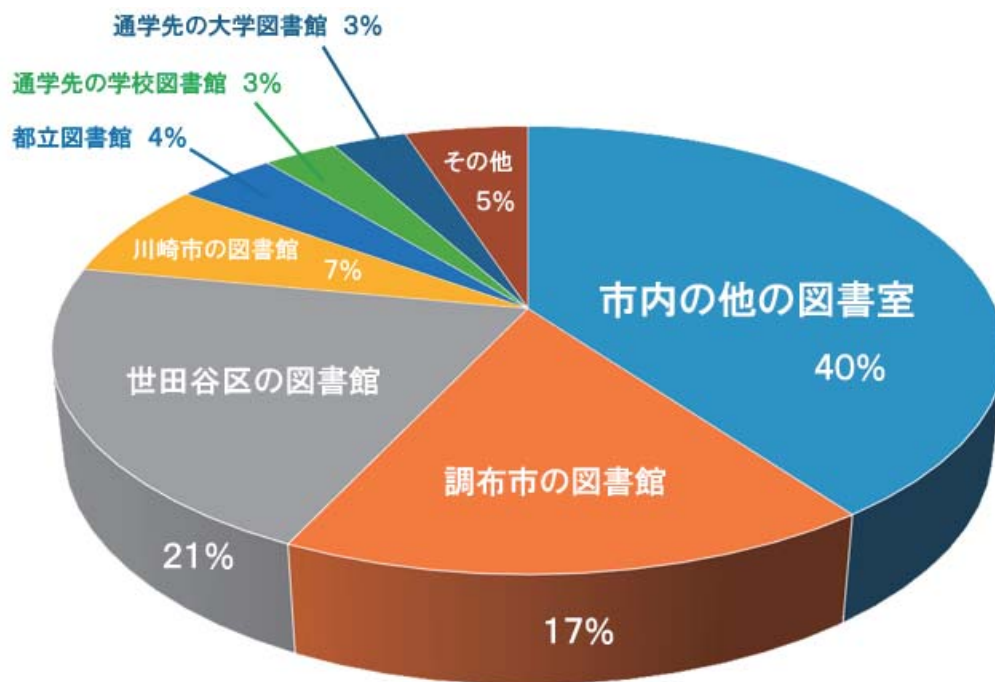


来館目的では、本や雑誌を借りる館外貸出が

44%と圧倒的に多くなっています。館内利用で多いのは「本や雑誌を読む」「調べものをする」「新聞を読む」となっています。次に多いのは「予約する」「検索機を利用する」となっています。



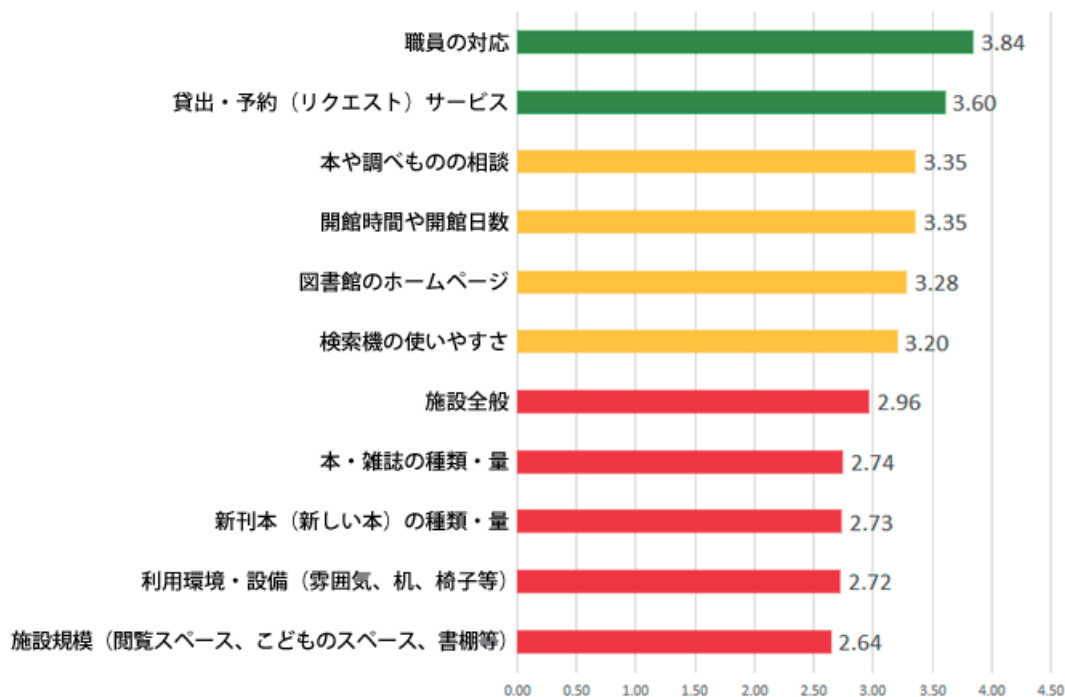
「中央図書館以外の図書館利用」では、市内の図書室（地域センターや西河原公民館）利用が40%に対し、隣接の3区市（世田谷区、調布市、川崎市）の利用が45%とやや上回りました。いずれも粕江より資料が多いので、使い分けしていると考えられます。また数は少ないですが、専門書、雑誌を求めて都立図書館やその他欄記載の国会図書館へ行く利用者もいました。



次がもっとも知りたい部分で、まず施設、資料、サービスについて図書館の現状の満足度です。これは「1」から「5」までの5段階評価で、点数が高いほど満足度が高く、「3」が普通。グラフの下の方、赤い部分が「3」以下で、不満が大きいのは施設規模（スペース）、利用環境・設備、資料（新刊本、本・雑誌）の種類・量となっています。「3」をわずかに超えた黄色のグラフ部分「まあまあ」という評価部分は、「検索機、ホームページの使いやすさ」「開館時間・開館日数」となっています。「職員の対応」は緑色の部分で相対的に高いことが分かります。

現在の図書館施設・資料・サービスの満足度について

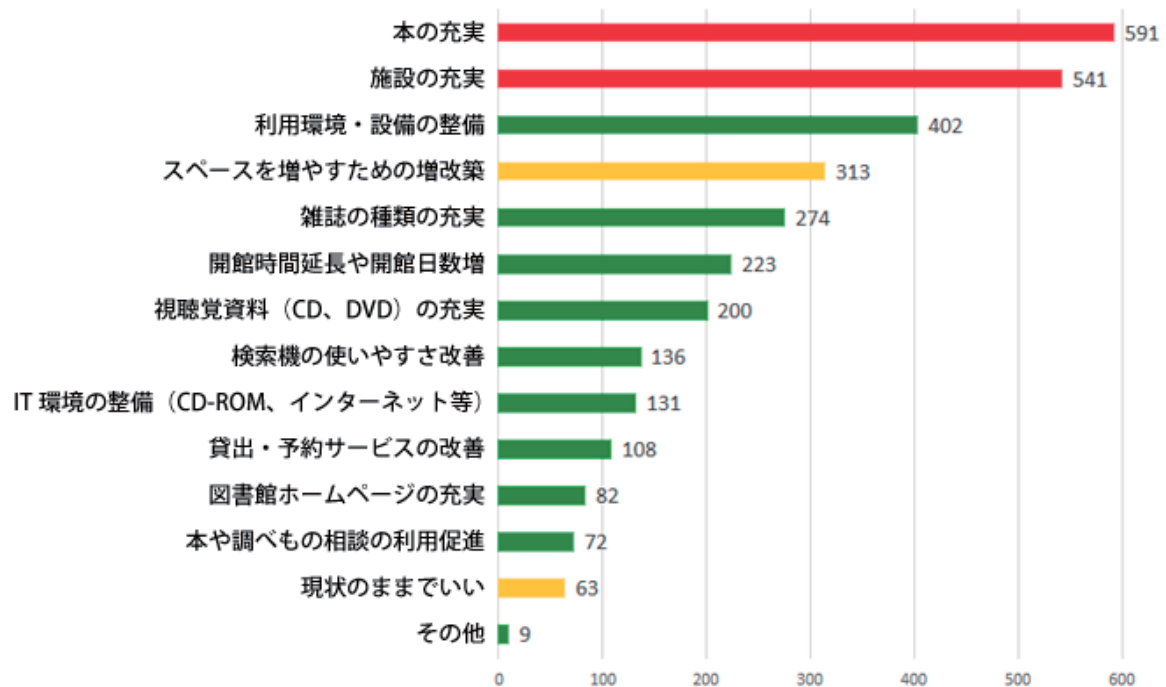
（1～5の5段階評価／点数が高いほど満足度が高い）



もうひとつは「今後整備・充実してほしいのはどこか」です。赤のグラフが示すように「本の充実」と「施設の充実」については 500 人以上が回答し、これは回答者全員 914 人の 60% 前後となり、もっとも切実な要望です。施設について増改築か現状のままかを対比して伺ったところ、増改築希望が現状維持の約 5 倍となりました。（黄色で示した 2 項目の対比）

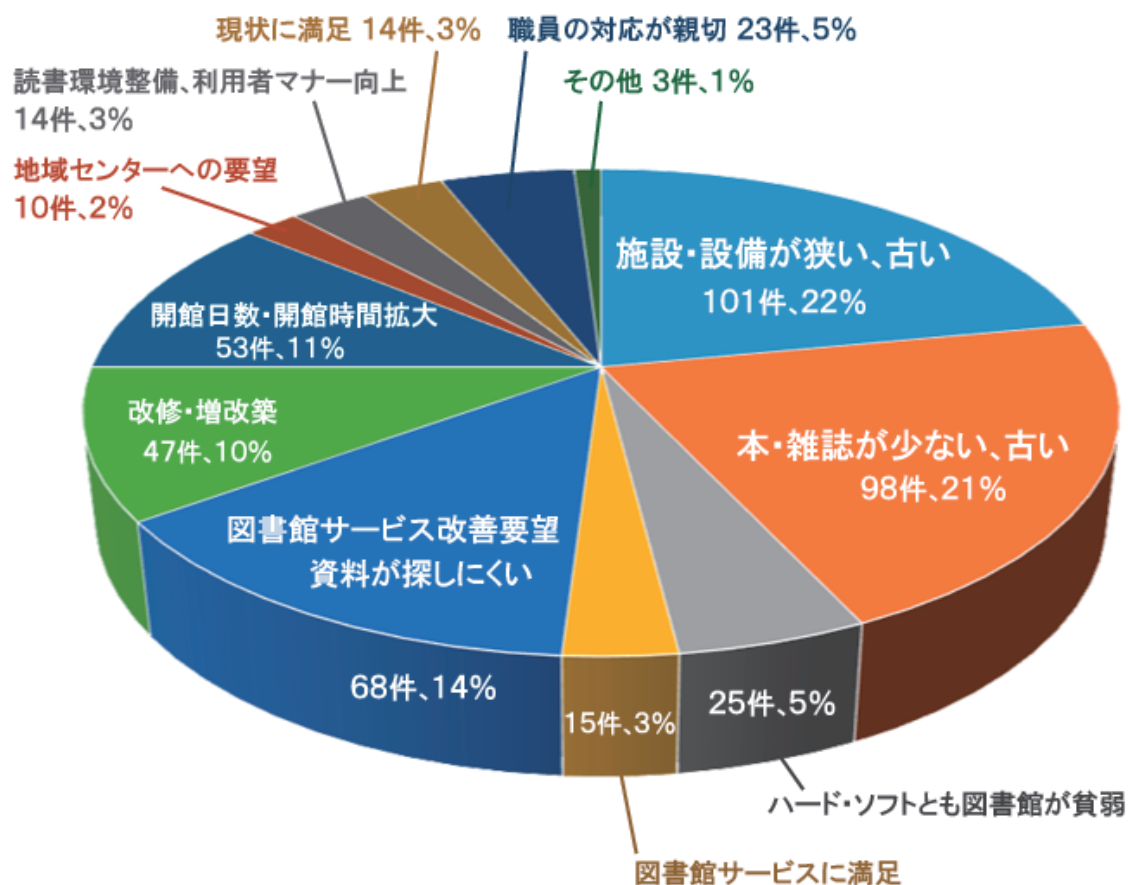
このほか資料充実の中身としては、本に加え、雑誌、CD・DVD 等があげられています。開館時間延長や開館館日数増も 4 人に 1 人が希望しています。

今後の図書館施設、資料、サービスについて



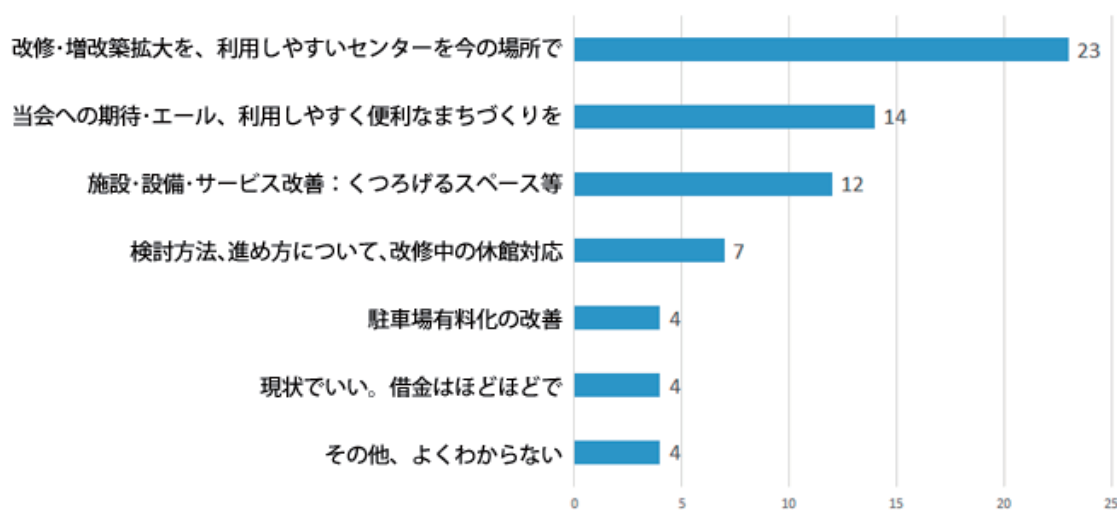
最後は記述式回答部分です。「中央図書館」についての自由回答は 358 通。回答者総数の約 40% となり、関心の高さがうかがえます。これをテーマ別に分けて再構成したのがこのグラフで「施設・設備が狭い、古い」「資料が少ない」、がそれぞれ 20% 以上と最も多くなっています。「施設・設備が狭い」と指摘した回答の中には、「快適な読書スペースを、ゆったりした子どものスペースを、学習室を増やして等等」具体的な提案が含まれています。同様に「資料が少ない」と指摘した回答の中には「雑誌の種類を増やして、文庫本を増やして」等、具体的提案も少なくありません。

記述式自由回答結果



「市民センター」の改修については、自由回答数 66 通。もっとも多かったのが「増改築を含む市民センターの改修」でした。次いで「施設、設備、サービス等についての具体的な改善要望」、「本会への期待、激励」といった順でした。

市民センター改修に望むこと



アンケート全体を通じ、最も切実な要望は「施設・設備が狭い、スペースの拡大を」、「資料が少ない、もっと充実を」の二つということが明らかになりました。

今後はこの利用者アンケートを詳しく分析し、具体的な施設、サービスへの提案を仕分けする等して「誰にとっても使いやすい図書館」を探る中で活かしていきたいと考えます。市の市民意識調査についても同様な作業をして比較を行い反映できればと考えています。

図書館アンケート結果概要の報告は以上です。ありがとうございました。

▲ 公民館利用者アンケート

市民センターを考える市民の会 公民館分科会

まとめ役・世話人 周東三和子（しゅうとう・みわこ）

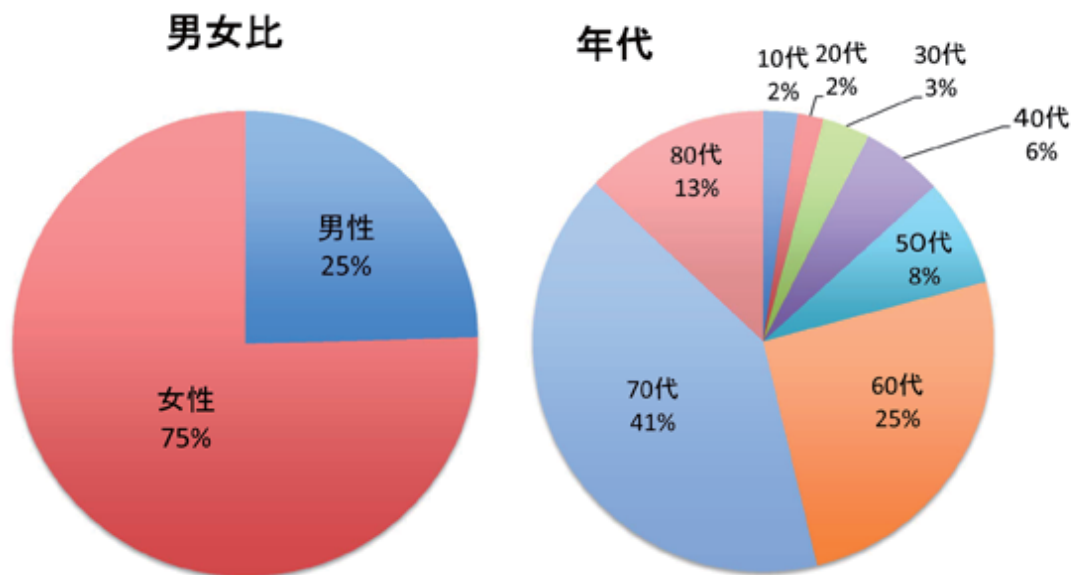
中央公民館の利用状況についてのアンケートを行いました。

実施期間は7月17日から8月14日の4週間。月1回の利用者を考慮してのことです。公民館の受付で部屋の鍵を借りにきた団体に配布し、メンバー個人に記入してもらいました。回収は公民館窓口の回収箱に入れてもらいました。配布については漏れもあったようです。回収数は中央公民館 336 通、西河原公民館 169 通でしたが、ここでは中央公民館 336 通についてまとめたものをご紹介します。分析はこれから実施し、市の意識調査の結果とも併せて、これからの公民館を考える参考にさせていただきます。

属性について

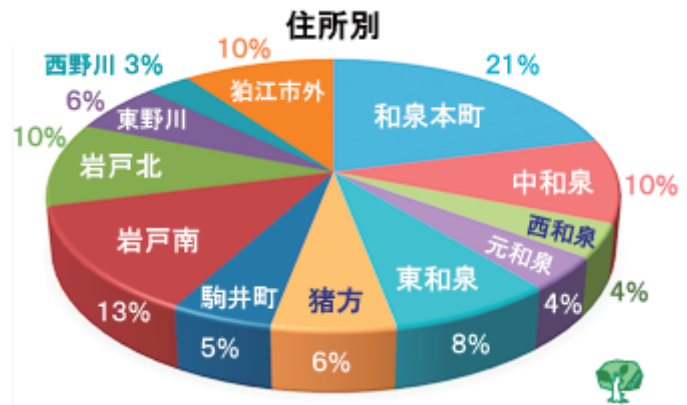
男女比は4分の3が女性。年代別では、60代、70代が全体の3分の2。80代を含めると8割近くなります。しかし、公民館事業参加の子連れのお母さんたちや、夜活動している若者たちなど、実際の利用者はもう少し若い人も多いように思います。その方たちの意見を聞き取ることも考える必要があると思います。

男女比と年代



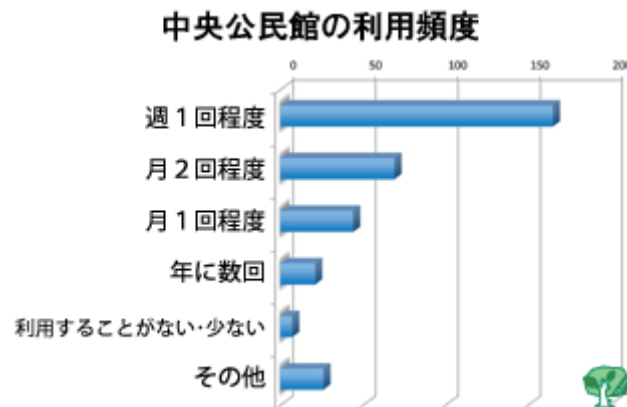
住所別について

まんべんなく利用されているのが分かります。ただし、西野川や西和泉は他地域と比べて少なく、距離的なものが影響していると思われます。



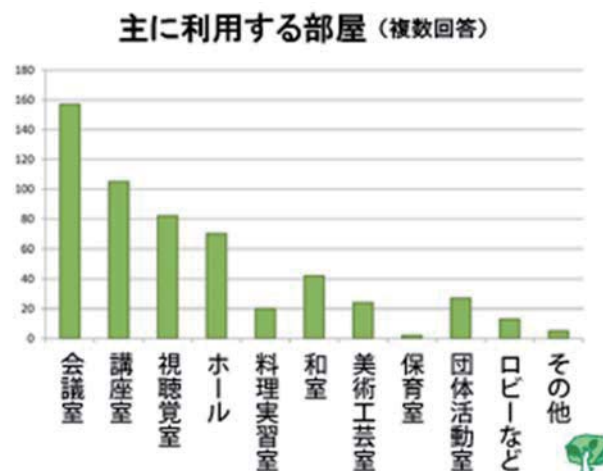
利用頻度

週1回が圧倒的に多く、月に2回、月1回と続きますが、その他の中には週3回、4回という方たちもいて、公民館がよく使われているということが分かります。



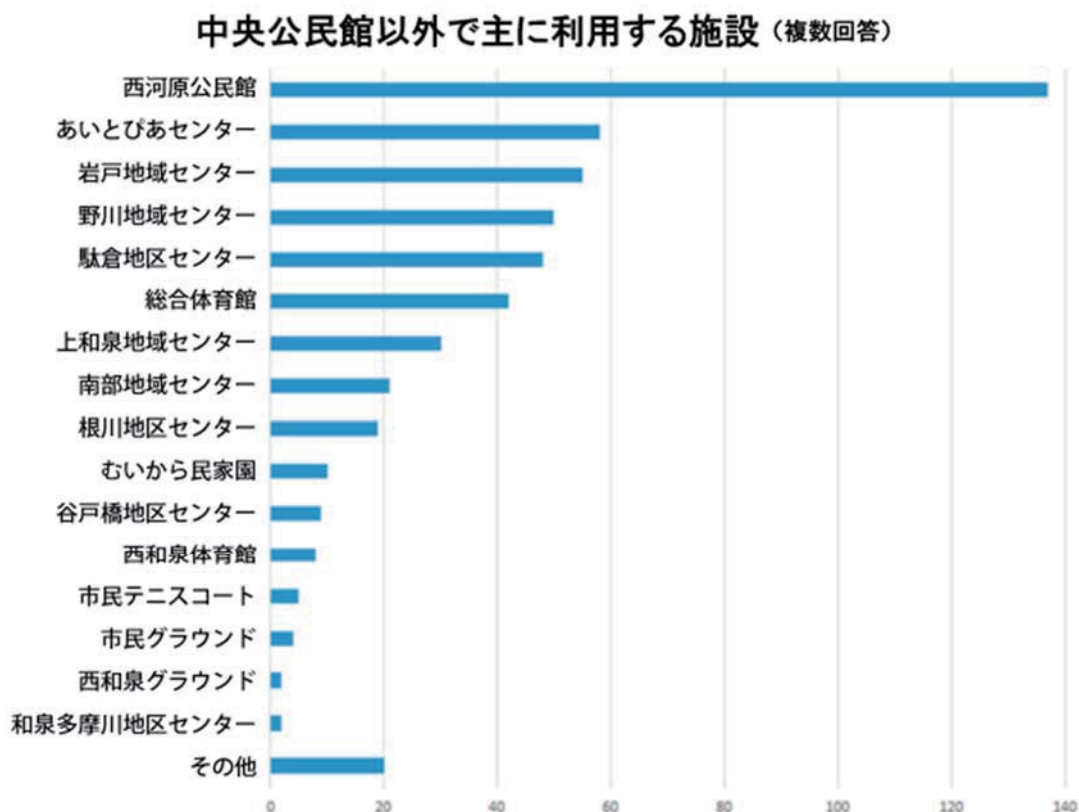
利用する部屋

4部屋ある会議室が多く、講座室、視聴覚室、ホール、和室と続きます。回答者の年代が年配の方が多いので、保育室などは今回の回答では少なめですが、必要な部屋として位置するものです。



中央公民館以外の利用

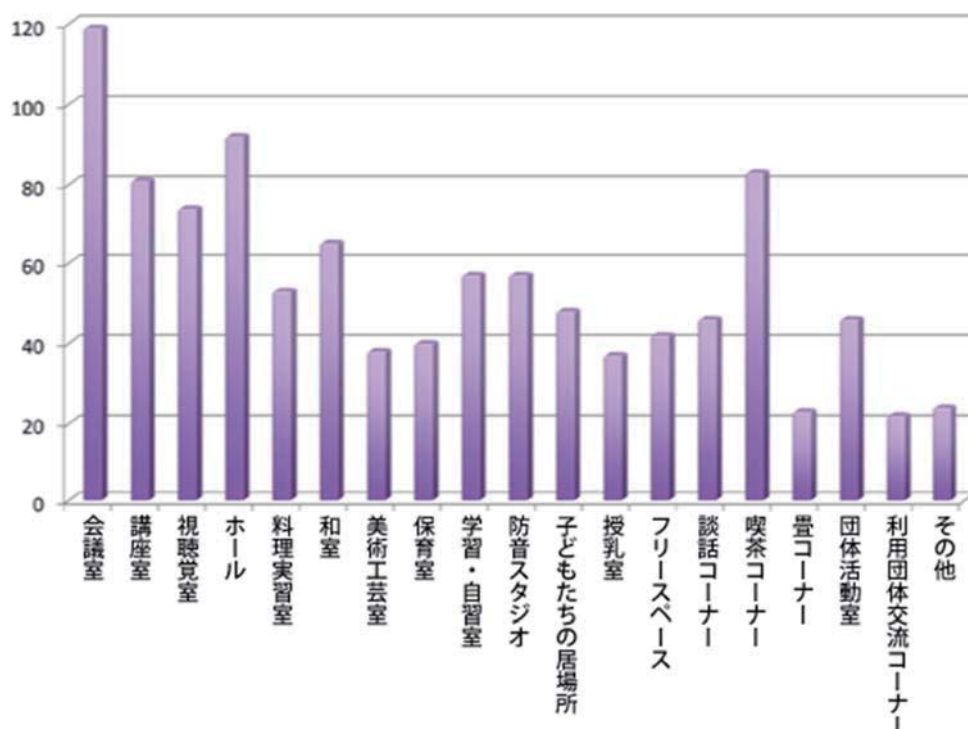
部屋が取れないときや個人として活動している場合などが含まれますが、ダントツに西河原公民館が多いです。2つの公民館を使い分けていると思われます。次にはあいとぴあセンター、岩戸地域センター、野川地域センター、駄倉地区センター、総合体育館と続きます。やはり街の中心部分でいろいろな地域から集まりやすいところの利用が多いようです。



市民センターに欲しい部屋

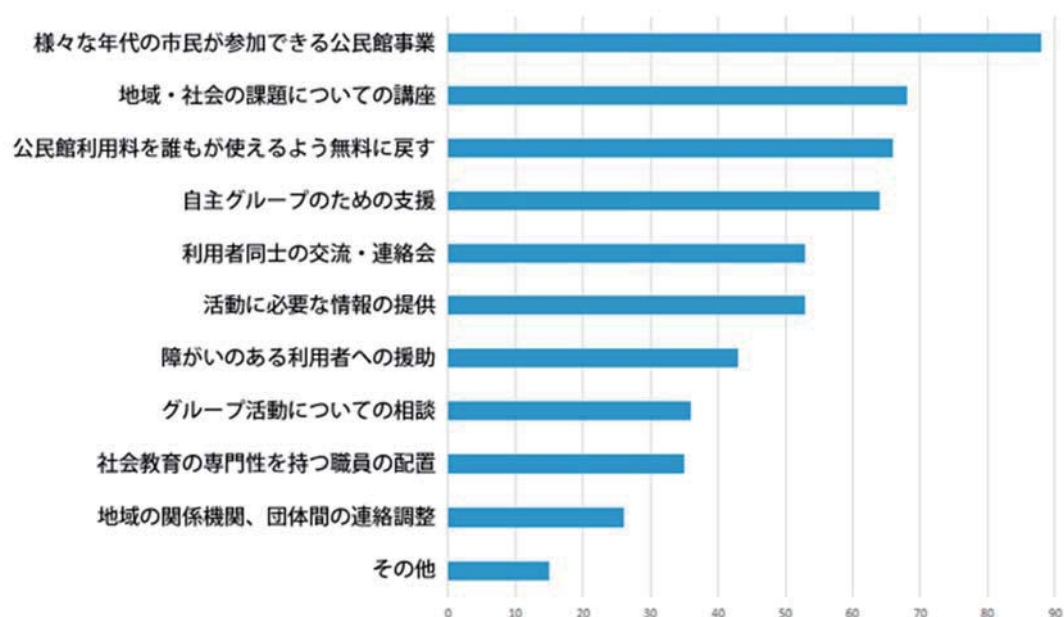
市民センター・中央公民館にどんな部屋がほしいか希望を聞いた中では、多い順に、会議室、ホール、喫茶コーナー、講座室、視聴覚室、和室と続きます。学習・自習室や防音スタジオ・料理実習室・子どもたちの居場所・団体活動室・談話コーナーなども多く回答されています。授乳室の声も多いですね。記述があったものでは会議室は小さいのをたくさんという声と、大きめの部屋を増やしてほしいという声が寄せられ、ホールは板張りにして、複数ほしいとの要望もありました。

市民センター・中央公民館に欲しい部屋



市民センター・中央公民館でどのようなことが行われたらよいかという問いに対しては、年代を超えて参加できる事業、地域・社会の課題についての講座、自主グループへの支援が多く寄せられ、利用者間の交流、情報の提供、障がいのある利用者への援助が次いで多く寄せられています。みなさんの活動への意欲の現れだと思われます。また公民館使用料を無料に戻してほしいとの希望が多く寄せられました。別問で今活動する上で困っていることを尋ねたところ、記述数 112 中「部屋数が少なく、使いたい時に取れない」48 と「駐車場の有料化で活動に支障」37 とが多数でした。ほかに空調（特にホール）をもっと調節できるようにしてほしいとの声もありました。

市民センター・中央公民館でどのようなことが行われたらよいか



● 第3部／若手メンバーによるプレゼンテーション



篠塚雄一郎

市民センターを考える市民の会
世話人



黒瀬武史

東京大学 都市デザイン研究室
工学部 都市工学科 助教



益邑明伸

東京大学大学院 学生

▲ 問題意識

消滅可能都市？

20xx 年豊島区はなくなるという研究者がいます。これは子どもを産む 20 代から 30 代の女性が極端に少なくなることを意味しています。

幸い狛江市はまだ人口が増えています、若者を呼び込まないと地方都市の問題は他人事ではありません。

市民センターの改修は、

これからの狛江のまちづくりに非常に重要なプロジェクトです！



2014 年 5 月 10 日付 東京新聞

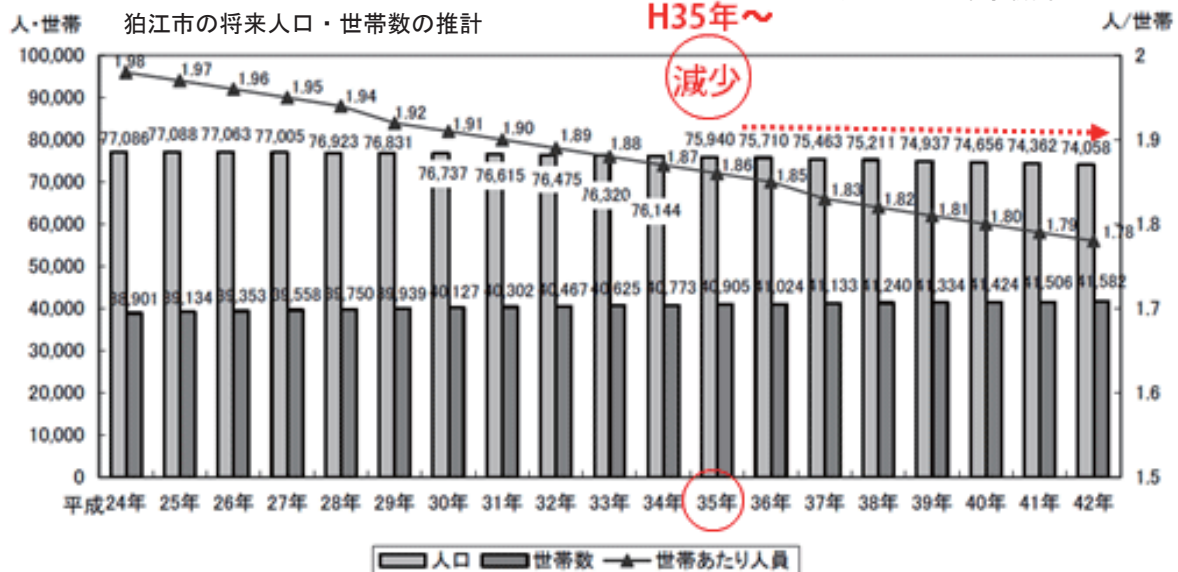


図 狛江市の将来人口・世帯数の推計

* 狛江市総合基本計画（第3次基本構想・基本計画）策定時の推計調査による。

成熟社会の公共施設整備

あらゆるものが右肩上がりだった成長社会から安定成長の成熟社会に入っています。バブル経済などまったく知らない平成生まれが大人になっています。

有名ブランドよりも安くても着やすい服を買います。大きいことや新しいことよりも中身のクオリティを気にします。

形式や既成概念よりも、楽しいか、使いやすいか、それが一番大事なのではないでしょうか？

みんなが使いたくなる施設を創りたいですね。

1：ハコ作りからエリア再生へ

成熟社会を迎え、斬新なデザインの建物を競う前時代的な考え方から、**エリアとしての価値を高めることにまちづくり**はシフトしています。

狛江市にはその可能性があります。

2：シュリンク※する社会への対応

本格的な人口減少社会を迎えた今、次の時代に受け継ぐ施設を冷静に考える必要があります。維持管理をどう負担するのか、ライフサイクルコスト※を意識する必要があります。

※シュリンク：

人口減少の中で住民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスを効率化していくために、都市や都市機能を縮小していくこと。

※ライフサイクルコスト：

製品や構造物などの費用を、調達・製造～使用～廃棄の段階をトータルとして考えたもの。

3：多様化に対応した公共施設

誰もが快適に好きな時に利用出来る、そんな利用価値の高いものに公共投資がなされるべきと考えます。

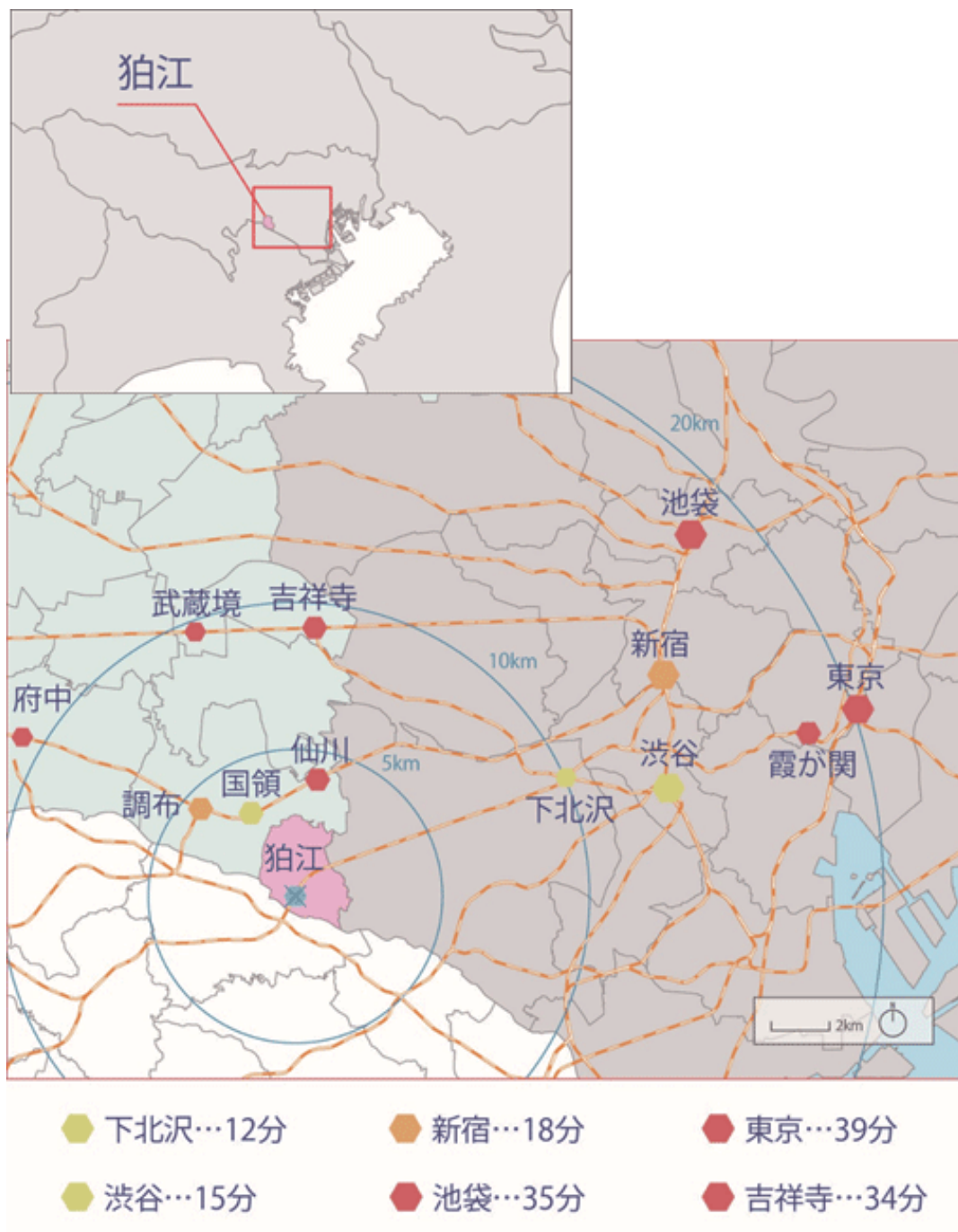
多様な価値観やライフスタイルを前提に**多くの人が利用したくなる施設とは何か**を考えるべきではないでしょうか。

▲ 狛江の分析

広域的な狛江の立地

狛江は小田急線等で新宿、渋谷まで 25 分程度と通勤利便性の高いまちです。

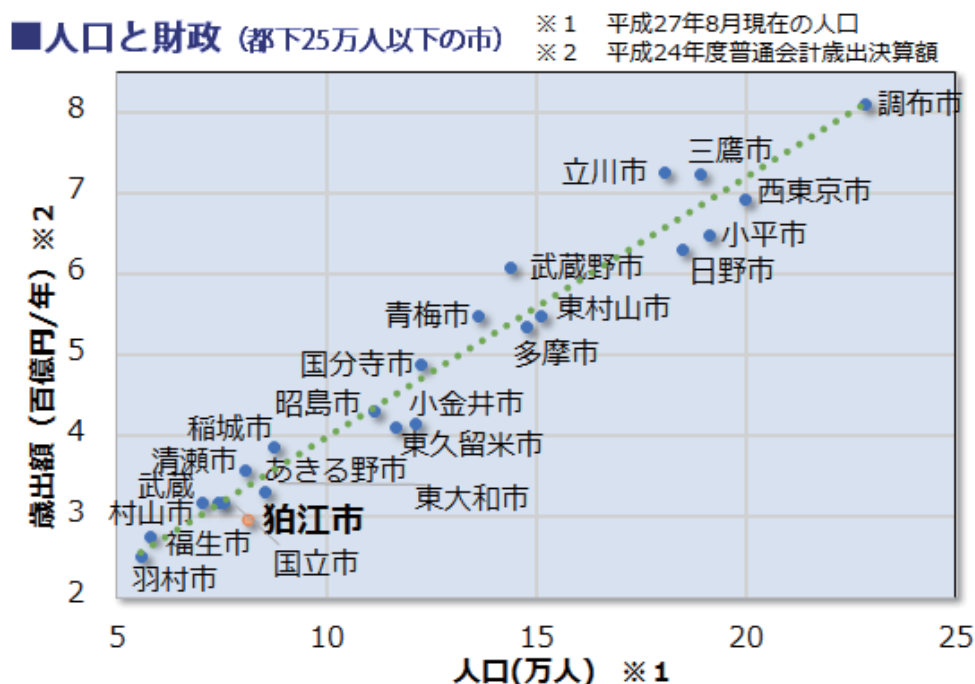
都心に程近くありながら、多摩川や野川に囲まれ、狛江駅前には弁天池があるなど水と緑に恵まれた暮らしやすいまちです。



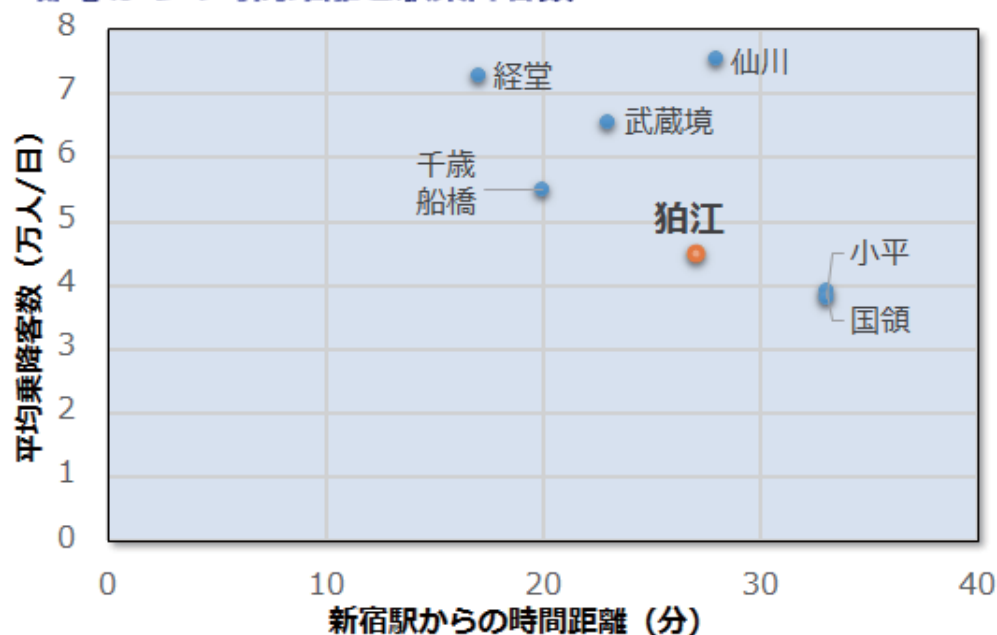
周辺の類似するまちとの比較

人口と予算を周辺他市と比べると、狛江市は人口、予算規模とも小さくなっています。大企業がないことも関係してか、全体に見られる相関の傾きに対して、予算が低くなっています。

新宿駅からの時間と乗降客を見ると、同等の位置にある地域に対して、乗降客数が小さくなっています。これはポジティブに捉えると、比較的静かなまちと言えますが、見方を変えると少し賑わいに欠けると言えます。



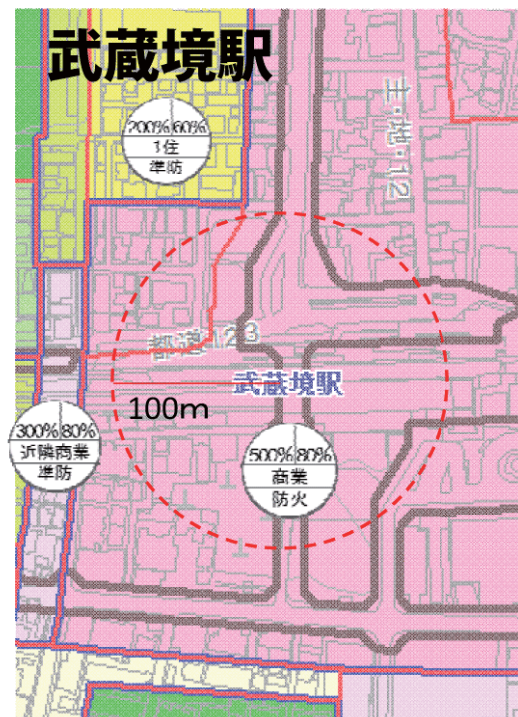
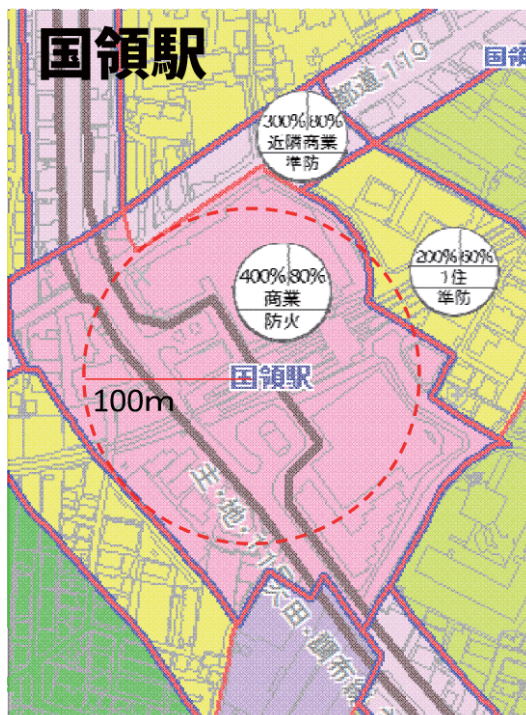
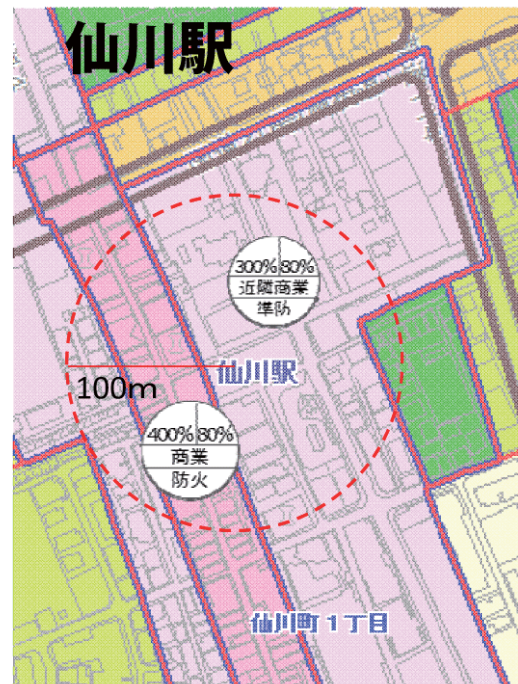
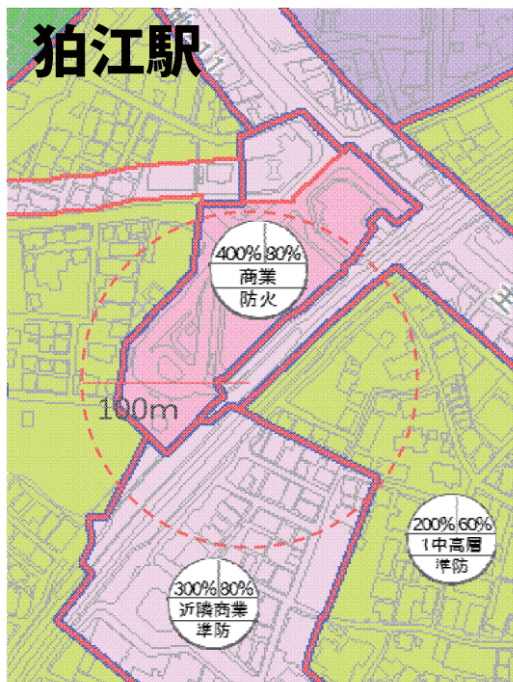
都心からの時間距離と駅乗降客数



中心への集積がやや弱い

狛江と類似する周辺のまちの駅と比べると、狛江駅周辺は商業系の地域に指定されているエリアが狭く、駅周辺の土地の使い方は大きく制限されています。

いまの規模に合った土地の使い方をもっと自由に考えることで、商業に加え、便利な公共サービスや個人の活動による狛江ならではの魅力をさらに創り出せるかもしれません。



駅周辺に公共施設が点在

狛江駅周辺には公共施設や公共用地が点在しています。駅周辺の割には緑も点在しています。

公共施設は歩いて回れる場所にあります。必ずしも有効に利用できていません。(300m圏内に集まっている)市民センター改修を機にこれらの有効利用策も検討すべきと考えます。

公共施設間の連携や
公民の連携で
エリアの魅力を
上げたいですね。



人の集う交流空間の不足

狛江駅の周辺などには商業をはじめとする都市機能が集積しており、都市的な活力も感じられますが、物販店・飲食店・サービス店舗だけでなく、市民の交流や文化活動に資する公共的な交流空間が求められています。(狛江市マスタープランでの課題)

狛江駅北口前は、機能的ですがバスロータリーが大きく、人のための空間は一部しかありません。



ヒューマンファースト※のまち

20 世紀のモータリゼーションに対応し、都市づくりは自動車交通を優先してきました。

東京西部も例外ではなく多車線道路、歩道橋が多く存在します。

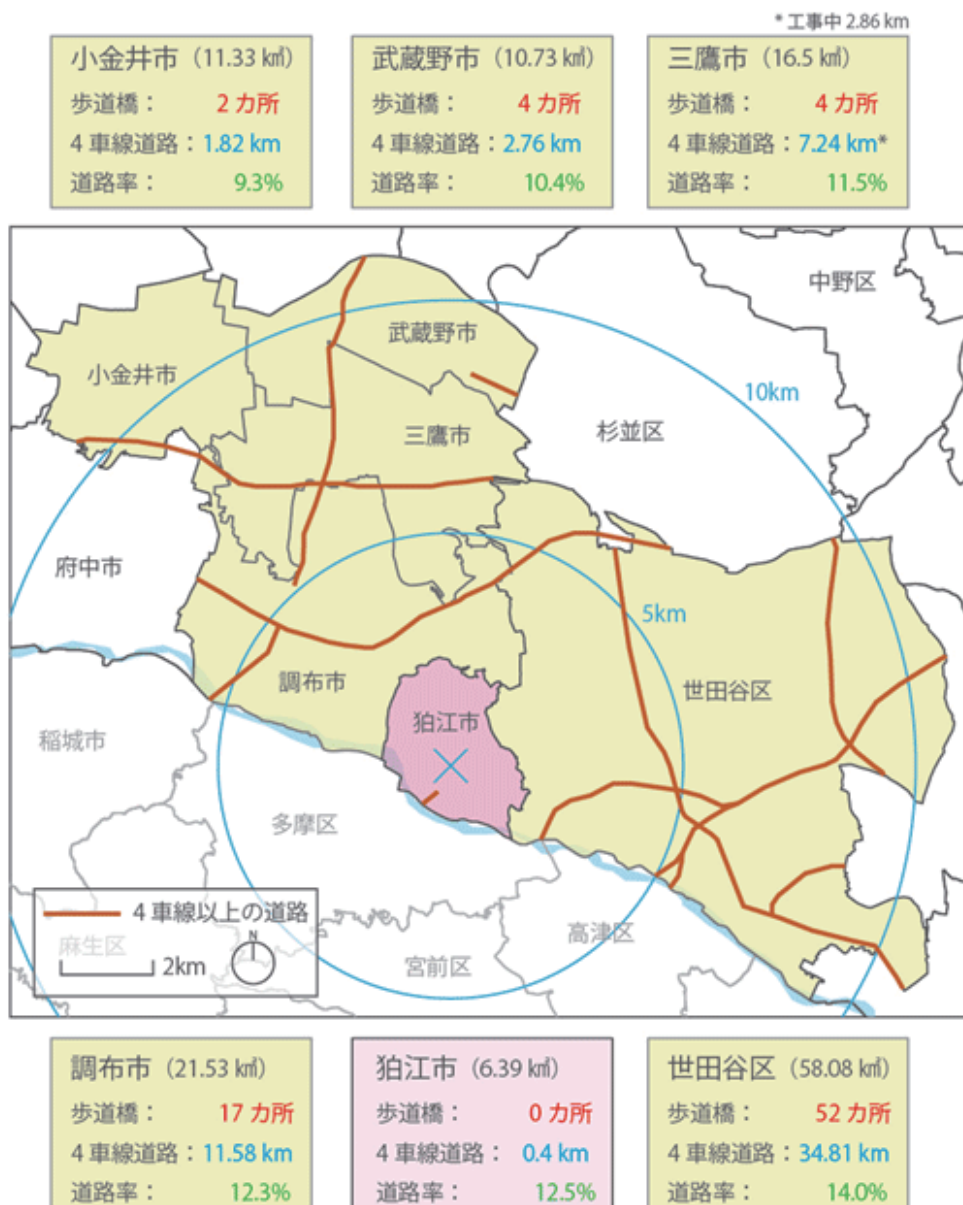
狛江市は市域が小さいこともありますが、大気汚染、騒音、振動の原因でもある 4 車線以上の道路が実質ありません。道路による地域分断の象徴である歩道橋也没有。

多車線道路がないにも関わらず、道路率は比較的高くなっており、たくさんの道が張り巡らされており、歩いて移動しやすいまちと言えます。

狛江はヒューマンファーストなまちです。

※ ヒューマンファースト：

歩行者のための空間を第一に考えること



顔が見えるまち

2車線の道路は反対側の歩道を歩く人を認識することが可能です。知り合いがいたら大きな声を出せば、呼び止められます。

4車線以上の道路ではよほど目の良い人でないと、反対側の歩道を歩く人を認識することができません。仮に認識できたとしても、呼び止めることはできません。呼び止める気にもならないでしょう。

私たちの住む狛江は広い歩道を有し、Face-to-Face のコミュニケーションが取れるまちです。

良好な街路環境（狛江通り）



環境を阻害する街路環境（甲州街道）



狛江の強みと弱み

私たちが住む狛江は、都心からも便利な場所にありながら、多摩川をはじめとする水と緑に恵まれた暮らしやすい環境にあります。

一方で、若者が集まるような場所がなく、他のまちに比べても、賑わいなどの面で魅力に欠けます。

強みをより打ち出して、弱みを克服したいですね。

強み：小さくまとまった暮らしやすい街

- ・市域中心にある狛江駅周辺に公共施設が集積
- ・小さく平坦な移動しやすい街
- ・駅周辺にも緑地が点在している
- ・適切な規模の道路が整っている

弱み：魅力的な場所が少ない

- ・他のまちに比べて、商業施設なども含めて駅周辺の集積が弱い
- ・賑わい面など若者目線からすると魅力が低い
- ・駅前空間は機能的に出来ているが、人が憩い、集う場所がない
- ・地元に居場所がない

▲ 国内外の事例

新しい時代の公共施設

人口減少社会に入った現在、公共施設はタダ、サービスはすべて税金での既成概念を変えている事例が出てきています。

立地ポテンシャルの高い公共施設は収入を生み、維持管理費を軽減させることができます。それによって、より高いサービスを継続できます。

元気なまちを次の時代につなぐには、みんなが使いたくなる賑わいある施設作りも大切な要素と考えます。



先進事例：駅前立地の市民の活動拠点

武蔵野プレイス

武蔵野市の JR 武蔵境駅前の旧農水省用地の払下げを受け、武蔵野市が西部図書館を移転・拡充して整備した。

図書館、大会議室、小会議室、ギャラリー、ワーキングデスク、サウンドスタジオ、パフォーマンススタジオ、クラフトスタジオが地下2階から地上4階の6層に配置されている。

ティーンズ向けの施設は低料金の設定がされているが、大会議室等の施設はスペースとしての水準も高く、一定水準の利用料金を取っている。一般的な自習室にあたるワーキングデスクも有料となっている。

1階中央にはカフェがあり、周囲に雑誌の開架が配置され、多くの市民で賑わっている。

武蔵野プレイスの4つの機能

図書館

生涯学習支援

市民活動支援

青少年活動支援

先進事例：まちの中心に機能を集約した事例

アオーレ長岡

アオーレ長岡は、空洞化が進む中心市街地の活性化のため、市役所機能を中心市街地に集約し、市民交流の拠点施設として市が整備した。（土地・建物所有者：市）

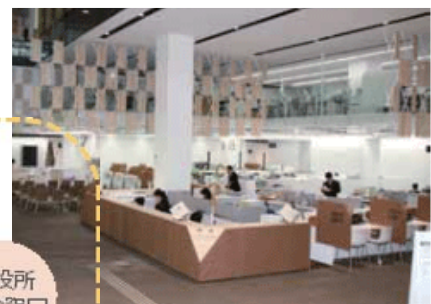
公会堂（アリーナ・多目的ホール）、市役所事務機能などが、屋根付き広場（ナカドマ）を中心に配置されている。



ナカドマ



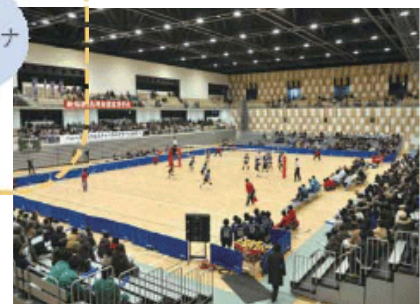
議場



市役所総合窓口



ホール



アリーナ



アオーレ長岡

先進事例：町所有地の未利用地の有効活用（公共に頼らず稼ぐ公共施設）

オガールプラザ

岩手県紫波町（しわちょう）が取り組む紫波中央駅前都市開発事業「オガールプロジェクト」。中核となる施設「オガールプラザ」は、紫波町の情報交流館（図書館＋地域交流センター）、子育て支援センター、民営の産直販売所、カフェ、居酒屋、医院、学習塾などで構成される官民複合施設だ。



オガールプラザにつくられた公共施設部分では、町民によって様々なイベントや勉強会、セミナー等が行われる。

使いやすく集まりやすい公共施設が集客装置となり、安定した交流人口が生まれている。図書館でのイベントや紫波マルシェなどの産直マーケットに町民自らがアイディアを出し、実際に関わって実行していく。



オガールプラザ

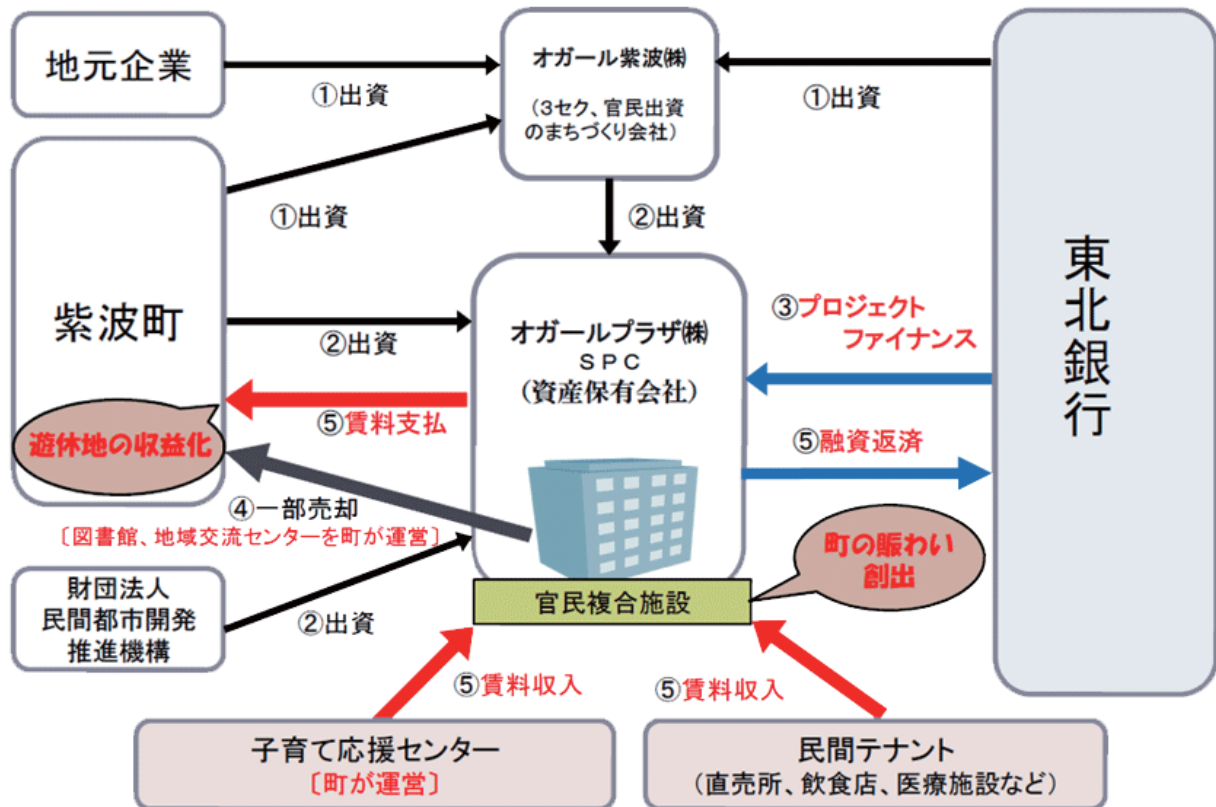


オガールプロジェクト（施設全体写真）



オガール広場

オガールプラザ スキーム



出典：福岡財務支局ホームページ
地域密着型金融に関するシンポジウム資料

先進事例（海外）

Highline ハイライン



ニューヨーク マンハッタン島の南西に位置するハイラインは長く放置されていた廃線鉄道高架橋を市民活動を原点に多くの個人や組織を巻き込んで実現したプロジェクトです。優れたランドスケープデザインにより魅力的な遊歩道を造っただけでなく、長く人々が近寄らなかった周辺エリアの再生をも実現しています。



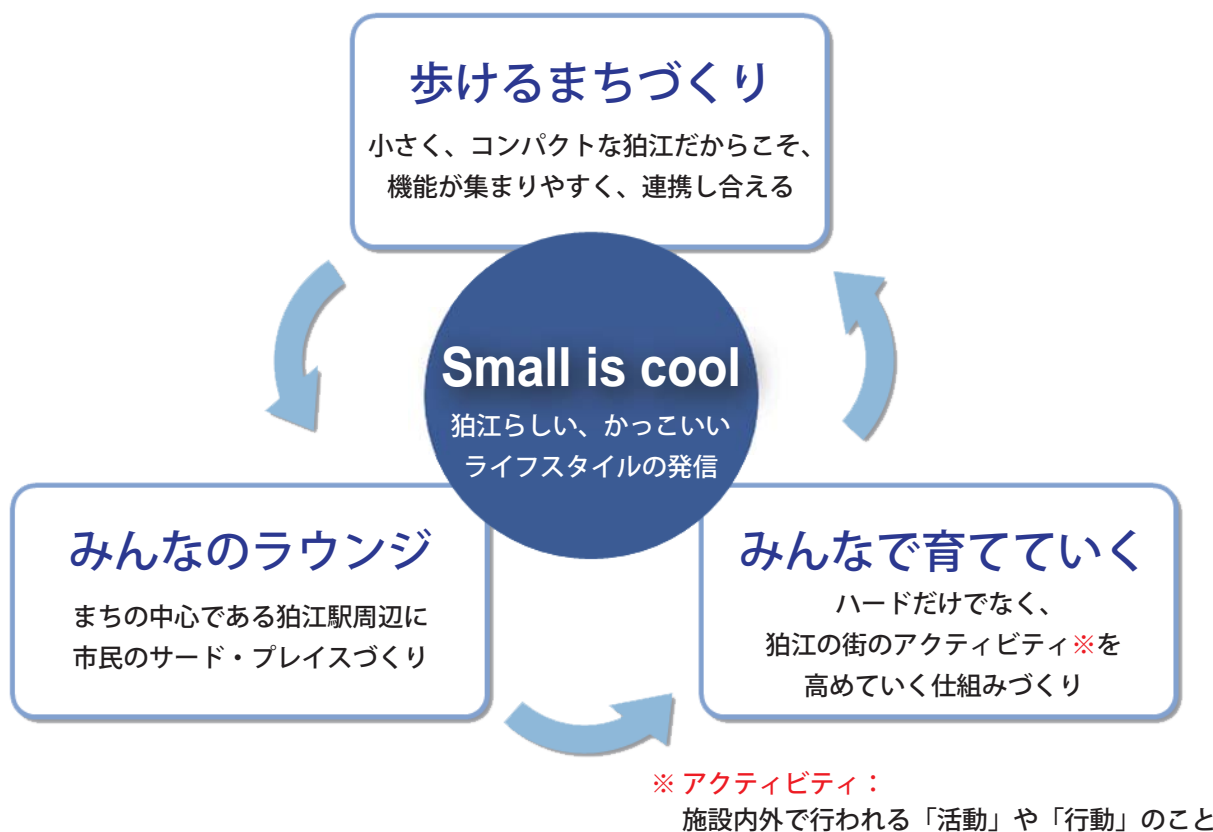
Portland Ace Hotel ポートランドエースホテル

全米で住みたい都市ランキングで1位になったポートランドは公共交通を活かした環境先進都市と言われています。

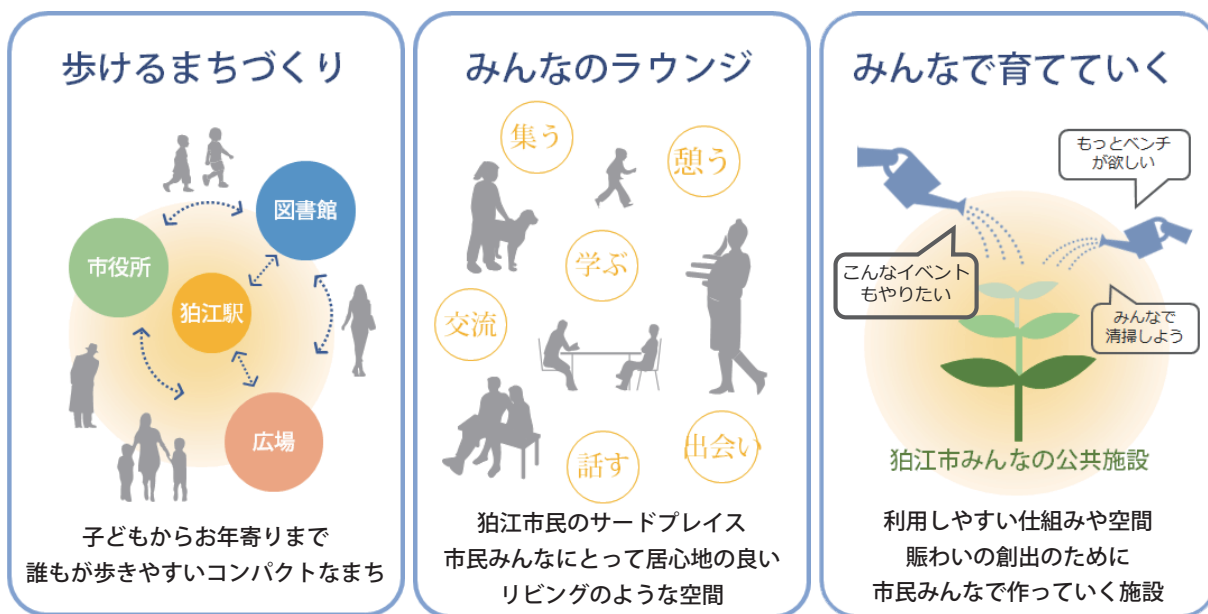
人口 60 万人程度でニューヨーク、ロサンゼルスなどの大都市と比べて小さなポートランドは、クリエイティブなライフスタイルを求める若者が集まって、独特の文化を発信しています。ポートランドのアイコンとも言える Ace Hotel は古い建物を細部にまでこだわった リノベーションをすることにより高級ホテルチェーンとは別の新しい価値を提供しています。1階のラウンジはポートランドのアイコンになっていて、宿泊客、旅行者、地元ワーカーなどが常に入り混じっています。



▲ コンセプト



Small is Cool



▲ 実現のための方策

市民センター改修に合わせた

3つの戦略

私たちの問題意識や狛江市の強み、弱みを踏まえて、市民センターの改修に際して3つの戦略を提案します。

単に図書館がキレイになった、公民館が広くなったではなく、次の時代の狛江をつくるきっかけとなり、より豊かな市民生活の実現に向けたトリガーになる必要があります。

**狛江の
新しいライフスタイルの
発信拠点にしたいですね。**

戦略1：市民の交流拠点をつくる

- ・誰でも、用事がなくても使うようなラウンジのような空間を確保する
- ・市民センター1階は市役所広場との一体感を重視する

戦略2：駅を含めたエリアの回遊性を高める

- ・駅周辺エリアの回遊性を高めるため、歩行環境の改善を行う
- ・公民連携により遊休施設や空間の有効活用を行う

戦略3：ハコモノ整備で終わらせない

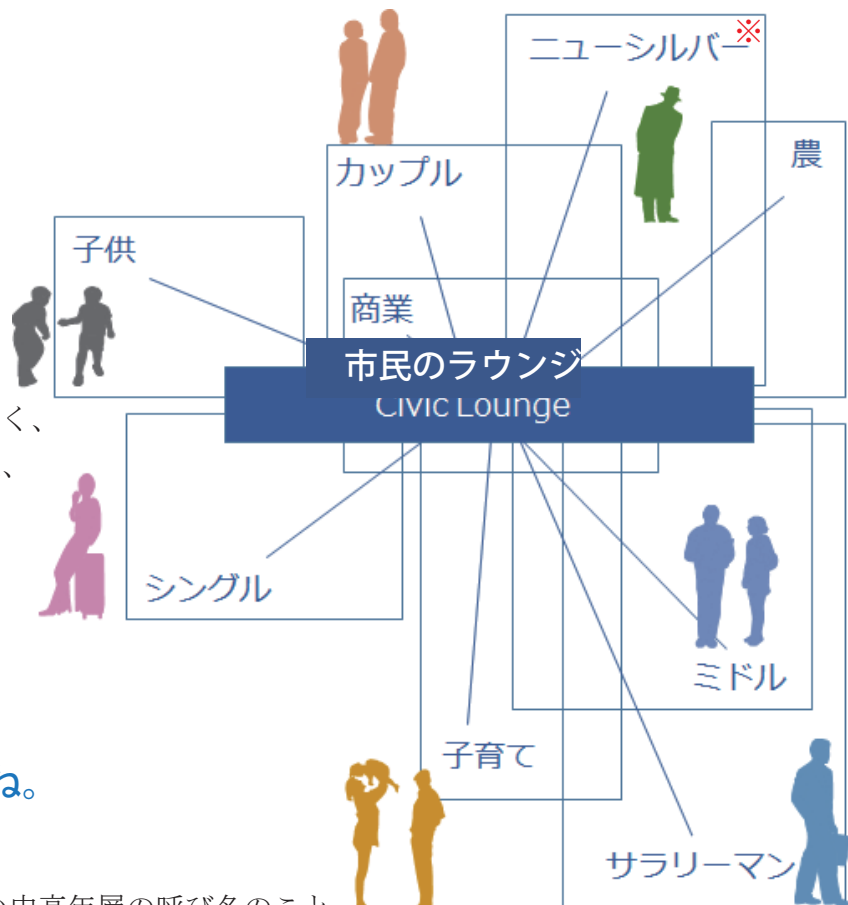
- ・施設（ハード）をつくるだけでなく、マネジメント（ソフト）をセットで考える
- ・施設の利用方法やアクティビティを想定する

人と人を繋ぐ

小さい狛江市ですが、都心へ通勤するサラリーマン世帯だけでなく、地元で仕事をする人や学生、中高年層など様々な人が暮らしています。

**様々な人が集まる
地域コミュニティの
核になると良いですね。**

※ ニューシルバー：活発で好奇心の強い中高年層の呼び名のこと



サード・プレイス



ファミリー

土曜日のランチは決まって広場のカフェで。一週間の出来事をみんなで話す時間。食事のあとは子供は塾へ大人は買い物へ。それぞれの活動

33歳 専業主婦

3歳の娘の午前中の散歩コース。広場で遊ぶ娘を見ながら、ママ友とカフェでおしゃべり。家事を始めるまでの充電時間



30歳 サラリーマン

平日は仕事が早く終わった日に資格の勉強で図書館を利用。隣のカフェで22時まで自習し、共働きの妻と待ち合わせて帰宅

14歳 男子中学生

部活に入っていないので、放課後は友達と市民センターに集まって雑談。ダラダラしながらたまには宿題もやる

66歳 ニューシルバー

去年定年を向かえ、たっぷり時間があるので、図書館で郷土史を勉強し始めた。広場のケヤキの下で子供たちを眺めるのが日課



52歳 パート女性

子供も巣立って、週3日の大学でのパート勤務。少し余裕が出来たので、公民館のサークルに最近参加

38歳 ワーキングママ

週末のマルシェで有機野菜を買うと一週間の料理のやる気が出る！スーパーヘクルマで買い出しに行くよりテンションup！



自宅（ファーストプレイス）、職場や学校（セカンドプレイス）に加えて、第三の居場所（サードプレイス）を持つことが都市生活をより豊かにすると言われています。

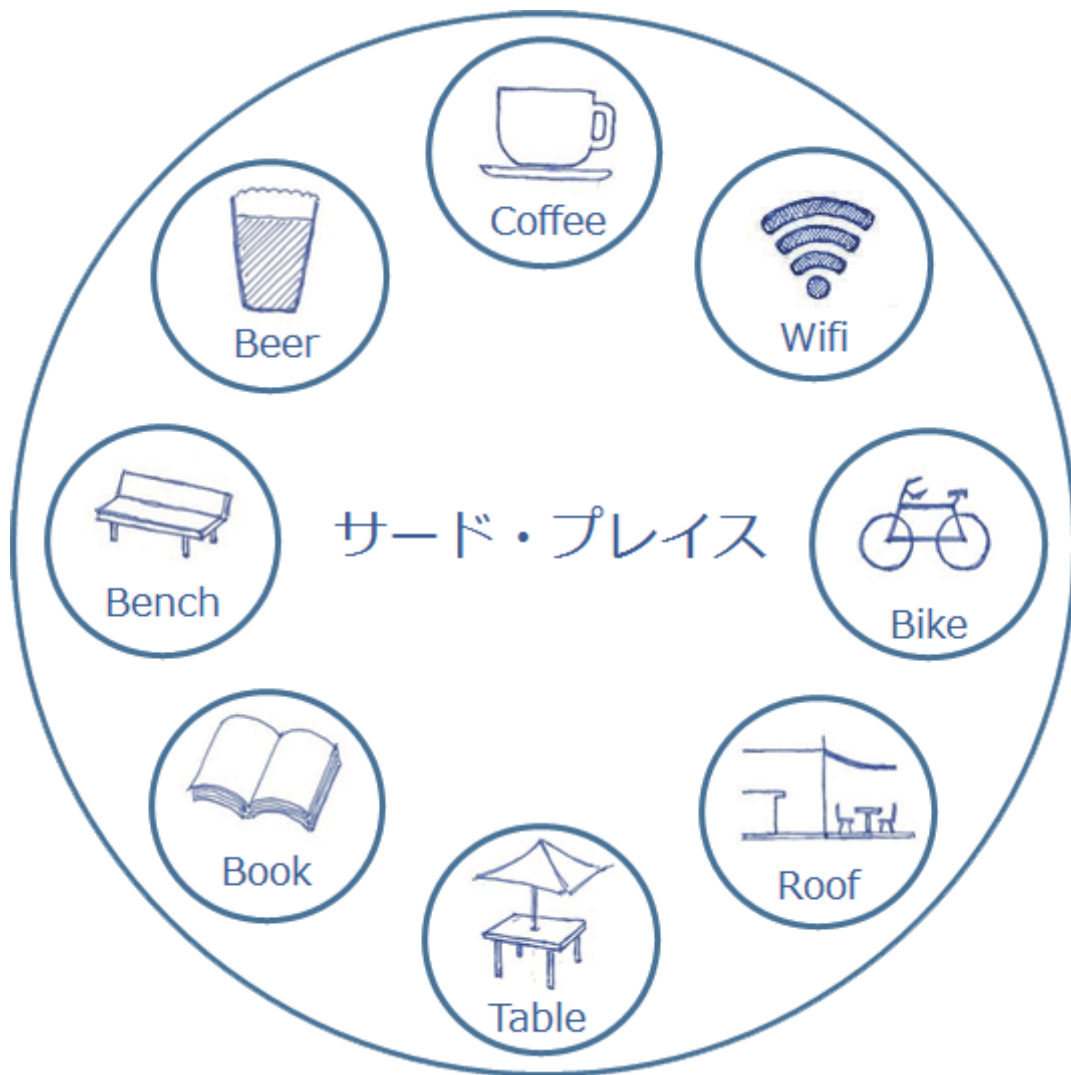
盆踊りやフリーマーケット、ラジオ体操など、現在も市役所広場を利用したアクティビティが存在しますが、市民センターの改修に合わせて、

**市民センターと市役所広場が
多くの市民のサード・プレイスのような場所になるといいですね。**

サード・プレイスに欲しいモノ

市民のラウンジは、市役所広場と市民センターを一体的に捉えた空間と考えます。
市民が交流したり、休憩したり、学習したり、様々なアクティビティが想定されます。

センスの良いモノや空間、サービスがあったら、
行きたくなりますよね。



市役所広場の整備

市民センターは市域の中心に位置し、狛江駅からも近く、多くの市民にとって利用しやすい場所にあります。

ただし、現在は狛江通りから見えにくく、狛江通り以外からのアクセスに課題があります。

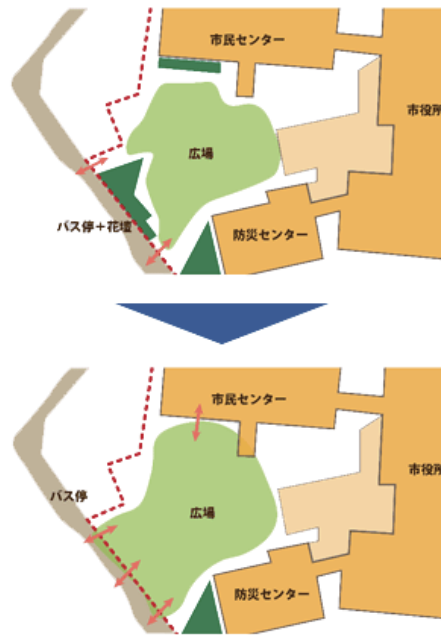
さらに、せっかく良い立地にありながら、ゆっくり寛ぐような設えがないため、あまり利用されていません。

市民センターの改修に際して、市役所広場の再整備が極めて重要と考えます。

広場をまちにひらく

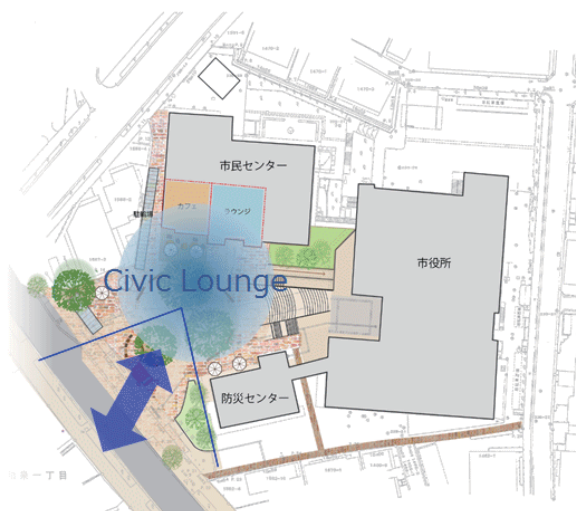
フラットな空間を拡大

ファニチャなど休憩できる設え



市役所広場の整備

広場をまちにひらく



◎バス停の移設、公衆電話の撤去などで狛江通りにひらく

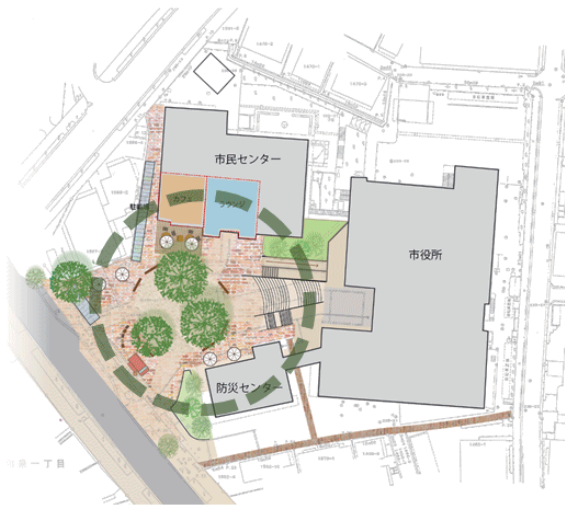


◎広場のアクティビティを狛江通りに見えるようにする



外部からの視認性やアクセスの向上

市役所広場の整備



高木を残しながらフラットな空間を拡大



階段に座ってパフォーマンスを見学



シェアサイクル※の導入

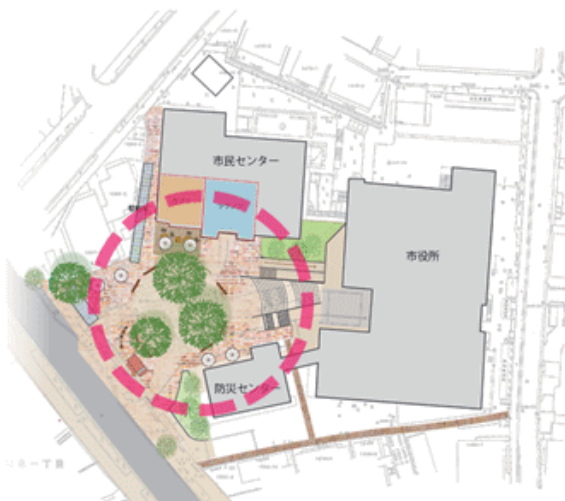
※ 自転車の貸出返却場所から、市民が使用したいときに気軽に借りることができる自転車のこと



木陰で読書

みどりに囲まれた居心地の良さ

市役所広場の整備



ファニチャ※など休憩できる設え



大きなベンチで昼寝



市民センター1階と一体化



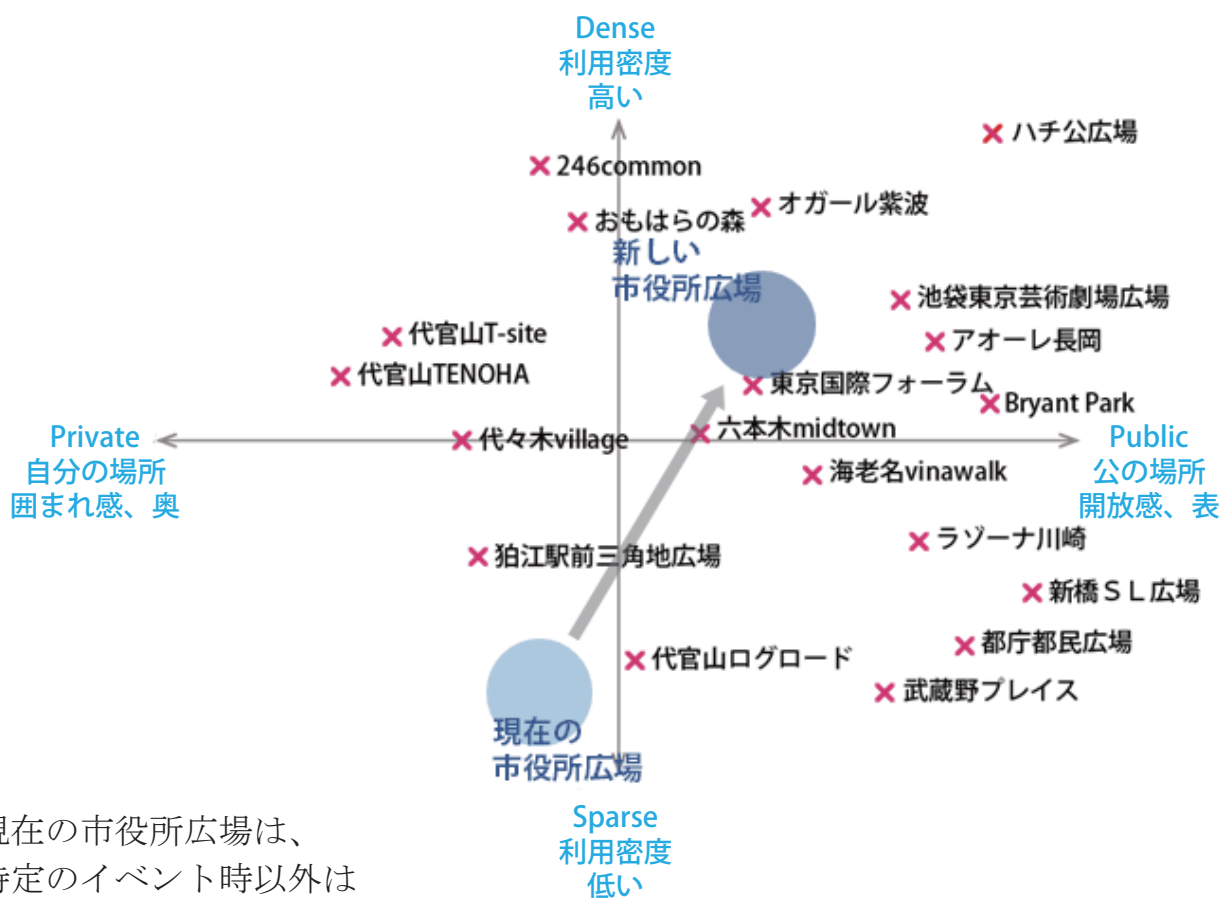
パラソルの下で食事

※ ファニチャ：

広場や街路などに置かれているテーブルやベンチのこと

憩い・交流・賑わい発信

市役所広場の性格



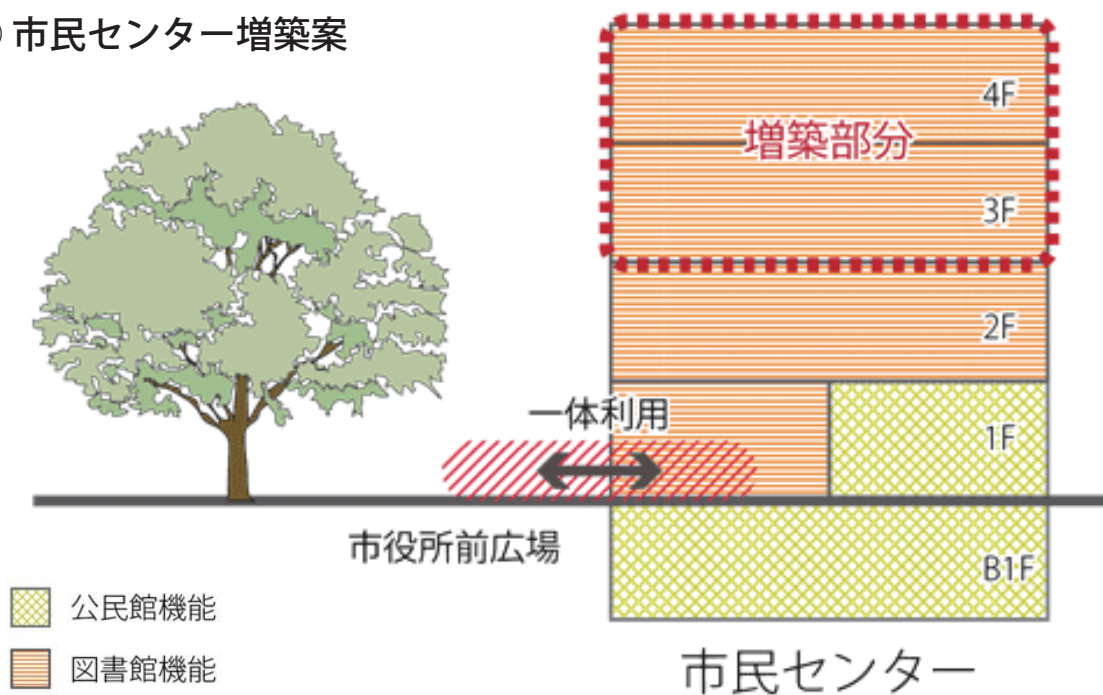
現在の市役所広場は、
特定のイベント時以外は
ほとんど利用されていません。

市民センターの改修に合わせて、市民の日常的な利用を想定して整備した場合、
広場の位置付けが、これまでのそれと変わってくると考えられます。

どこの広場にイメージが近くなるでしょうか？

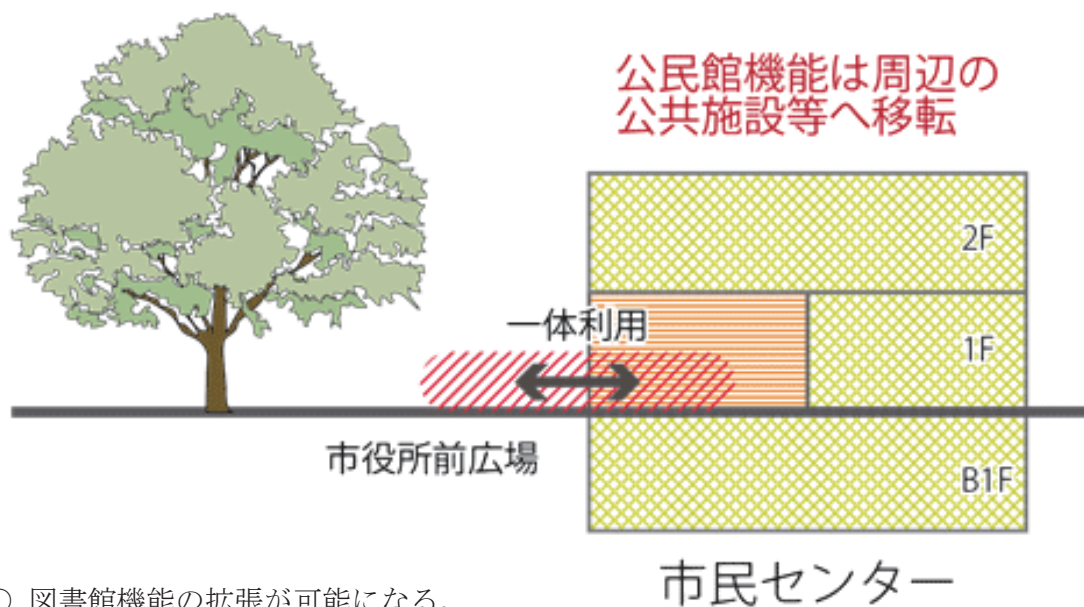
▲（参考）改修案の例

① 市民センター増築案



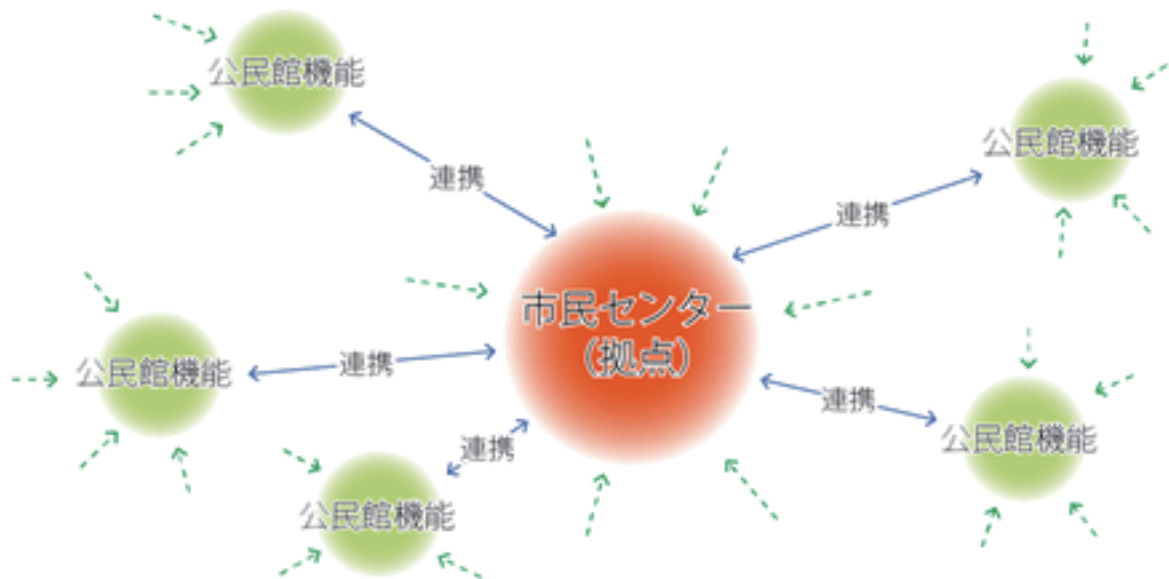
- 公民館機能と図書館機能を1か所に集約することで、利便性の高い施設となる。
- 公民館と図書館の相互の活動を連携させやすい環境が生まれる。
- 公民館分散案（下記）に比べて、増築に伴う費用増加が見込まれる。

② 公民館機能分散案



- 図書館機能の拡張が可能になる。
- 建設コストを抑えられる。
- 公共施設の分散による人件費の増加が見込まれる。

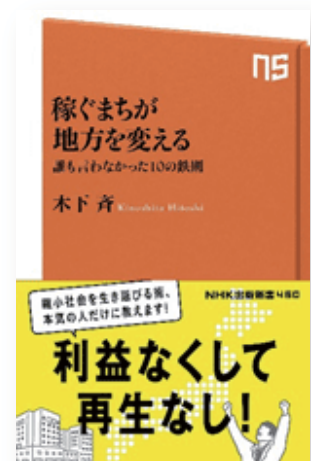
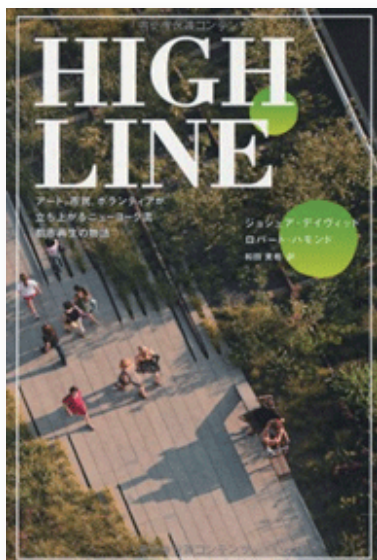
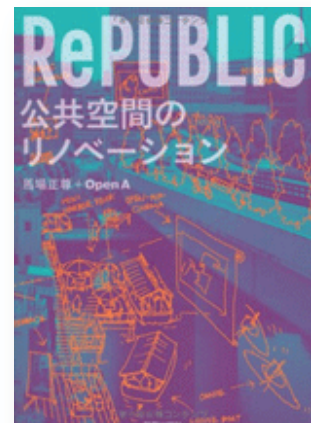
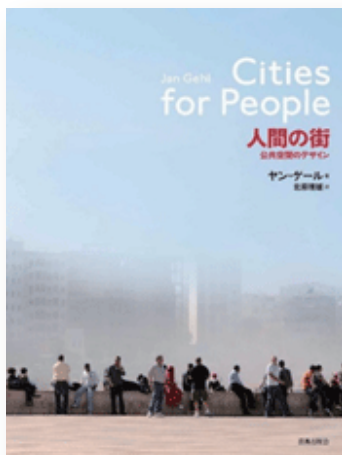
公民館機能分散イメージ



- ・市民センターを中心に“歩いて行ける”範囲に公民館機能を分散配置
- ・市内の遊休公共施設に公民館を分散配置することで施設整備費を抑制



▲ 参考書籍



私たちが新しい市民センターのコンセプトとしているのは
SMALL is COOL

全国で2番目に小さい狛江市は、多摩川や野川など
水と緑に囲まれ、とても暮らしやすいまちです。
コンパクトゆえにお互いの顔が見える
ヒューマンスケールのまちでもあります。

小さくてフラットなまちの真ん中に位置する市民センターは、
多くの市民にとって徒歩や自転車で利用しやすい場所にあります。

そんなポテンシャルを活かして、狛江らしくて狛江らしくないような、
狛江の新しいライフスタイルの発信拠点になったらいいなと考えています。

それが SMALL is COOL です。



市民センターを考える市民の会
中間報告会開催記録

2015年12月20日発行

表紙イラスト：青木香奈

編集者：市民センターを考える市民の会 世話人会

発行者：平井里美

発行所：市民センターを考える市民の会

<http://www.komae-tokyo.org/shimin/>

FAX: 03-3430-1402

Email: shimin@komae-tokyo.org